

**推進委員会当日 持参してください**

基本目標 1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり

施策の方向性 1 誰もが利用しやすい体制・情報提供の充実

今後の取組 (1) **相談窓口・相談体制の充実**

① **行政**

- ▶ 総合的な相談窓口のあり方を検討し、総合窓口の設置を目指します。
- ▶ 公設公民館を活用した、相談窓口の設置を検討します。
- ▶ 相談体制を総合的に検討・調整する会議の設置を検討します。
- ▶ わかりやすい相談窓口の設置と、周知に努めます。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
企画部	◆新庁舎建設後における相談窓口等の場所 ◆相談窓口等の設置を含めた分散型地域づくりの検討	◆公民館等を活用した行政機能について、本市の現状把握と先進自治体の調査、研究を実施した。	◆公民館等を活用した行政機能は調査、研究を継続 ◆新庁舎建設基本設計・実施設計は未実施のため、新庁舎における相談窓口等の検討に至っていない。	◆R5は分散型地域づくりの方向性に沿って相談窓口等の検討を進めるとともに、新庁舎建設基本設計等に併せて、総合窓口の設置を含めた検討を行う。	D	◆一部の案件については具体的な検討に着手したが、まだその実現には至っていないため	継続
総務部	◆窓口サービス向上委員会（連絡会、ワーキンググループ）の開催	◆開催なし	◆平成30年度に実施したアンケートの結果から職員の窓口対応等ソフト面については一定の評価を得られた一方、庁舎の設備的なハード面に関する要望への対応、サービスの向上が課題である。 ◆本庁舎に試行導入したAI窓口案内を令和4年12月末で終了し、窓口案内業務を市民課の申請補助業務と一体的に実施できるよう外部委託し、来庁者がよりスムーズに必要な手続きを行える体制を整備した。	◆現状下での更なるサービス向上策の検討 ◆新庁舎整備計画との連動	C	◆実績なし	改善

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (社会福祉課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆福祉相談相談窓口の拡充（1箇所→2箇所）</li> <li>◆各相談支援機関の連携の強化と職員研修の実施</li> <li>◆相談支援窓口のわかりやすい周知の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆福祉総合相談窓口を社会福祉協議会に設置した（R3 1箇所 → R4 2箇所）</li> <li>【相談件数】 R3（10月～）23件 R4 175件</li> <li>◆職員研修の実施 2月 多職種合同研修 「包括的相談支援について」（参加者：63名）</li> <li>◆包括的支援体制構築に向けた庁内連携会議の開催 係長会議・・・3回 課長会議・・・1回</li> <li>◆福祉相談相談窓口のチラシの配布 民児協定例会、地域ケア会議等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆福祉総合相談窓口を設置し、複合的な課題やどこに相談したらよいかわからない相談について対応した。</li> <li>◆職員研修や庁内連携会議を開催し、包括的相談支援について周知検討を行うことができた。</li> <li>◆取組内容について、周知徹底し、福祉分野だけでなく、全庁的な取組とする必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆総合相談窓口、包括的相談支援の周知</li> <li>◆各相談支援機関からの確につながってくるような仕組みづくり</li> <li>◆困難ケースに対応するための出口となる社会資源の発掘、連携</li> </ul>	B	◆概ね予定どおり事業を進めることができたが、事業拡大に向け、関係機関への事業の周知と連携を強化する必要がある。	拡充
保健福祉部 (高齢福祉課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆市内8か所に設置した地域包括支援センターにより、高齢者の多様な相談に応じ、相談内容により、関係機関と連携する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆高齢者の総合相談窓口として市内8か所の地域包括支援センターが相談業務を行うとともに、ホームページ、リーフレット等により相談窓口の周知を行った。</li> <li>◆令和5年1月1日付けで高齢福祉課内に基幹型地域包括支援センターを設置した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆高齢者の総合相談窓口として、高齢者の生活全般の悩み、相談に対して支援することができた。</li> <li>◆災害発生時や新型コロナウイルス感染症発生時においても業務を継続できるよう、市において各センターの業務継続計画（BCP）策定を支援した。</li> <li>◆地域包括支援センターを知らない市民もいるため、さらなる周知が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆相談窓口として地域包括支援センターを周知しながら、相談業務を継続する。</li> <li>◆各センターの業務継続計画（BCP）の内容見直しについて、市が支援する。</li> <li>◆関係機関と連携して、地域包括支援センターの周知を一層推進する。</li> </ul>	B	◆適宜、地域包括支援センターによる相談支援が行われているため。	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (健康増進課)	<p>◆健康相談会日程の周知 広報12回/年 ホームページ掲載 集団検診結果書に健康相談会の日程一覧を同封し個別に郵送</p> <p>◆健康相談会の実施 保健センター 39回</p>	<p>◆健康相談会や食生活相談会は、年間のスケジュールを立て、市民にも分かりやすいようにホームページや広報等で周知した。また、健診受診者には、結果の通知に同封し案内を行った。</p> <p>◆健康相談会 R2…34回、193人 R3…47回(保健センター45回、公民館2回)、317人 R4…39回(保健センター)、330人。</p> <p>◆食生活相談 R2…28回、14人 R3…47回(保健センター45回、公民館2回)32人 R4…40回(保健センター)46人</p>	<p>◆生活習慣の改善が必要な人や健康相談を希望する人が、安心して相談に来所できるよう、新型コロナウイルス感染症拡大防止の環境を整備して開催した。</p> <p>◆健康相談会の開催回数を8回減らしたが、来所者数は前年度よりも増加し、蜜を避けながらも効率的に実施できた。</p>	<p>◆相談や指導内容に応じて対応できる体制を整備する。</p>	B	<p>◆各種相談に係る周知及び相談体制はできているが、今後は、オンライン等で健康情報の発信を行う必要があるため。</p>	継続
子ども未来部	<p>◆わかりやすい相談窓口の設置と周知。</p>	<p>◆関係機関の実務担当者から意見を聴取しながら、発達支援に関連する相談先を分かりやすく紹介するために「相談窓口ガイド」を作成し、窓口等に設置した。</p> <p>印刷部数：約2800部 主な配布先： 乳幼児健診、就学時健診、窓口</p>	<p>◆「相談窓口ガイド」を改訂の上作成し、相談窓口の周知を図った。</p>	<p>◆相談内容に関連する諸制度や相談ニーズに対応するために、相談員等の知識、スキルの向上に努める。</p> <p>◆令和5年度から「子育て相談課」を設置し、体制の強化を図る。</p>	B	<p>◆相談窓口ガイドの改訂を行い、より分かりやすく周知することが出来た、継続的に広く周知する方法としてSNSによる情報発信について検討が必要</p>	継続
教育部 (生涯学習課)	<p>◆相談窓口の設置相談を受け、会場を提供する。</p>	<p>◆社会福祉協議会が行う地域住民助け合い事業の地区拠点として、公民館事務室を提供。</p>	<p>◆公民館としての主体的な活動ではないため、自主事業、貸館事業との調整が必要</p>	<p>◆事業実施に際し、関係課との綿密な連絡調整が必要</p>	B	<p>◆主体的な活動は行っていない。</p>	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 社協だよりやホームページなどを通して市民に各種相談窓口の情報を周知します。
- ▶ 行政、専門機関、地域住民などと連携を図り、相談支援のネットワークを強化します。
- ▶ 窓口に専門的な資格を持った職員を配置し、また、研修などを通して職員一人ひとりのスキルアップを図り、質の高い相談支援体制づくりに努めます。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	◆福祉総合相談窓口を設置し、複雑化、複合化する相談に対し、関係機関と連携できるよう相談支援包括化推進員を配置対応する。	◆あおぞらのいす（年12回）ひきこもり家族の集い（年12回）やヤングケアラー協議会（年12回）の実施やそれを通じたネットワークの強化、イベントを実施した。 ◆地域ケア会議（NCN年6回）、重層的支援会議（年12回）等を開催し、行政、専門機関、地域住民とのネットワークを強化した。 ◆ケアラースカフェ（月5回） ◆福祉総合相談（社協受付分120件）	◆関係機関や当事者会のネットワークづくり、アウトリーチを意識した相談の場などを積極的に実施した。	◆情報がより地域全体に広まるようにSNSなども活用した啓発・情報発信が必要。	B	◆限られた機関のみでの対応ではなく、積極的に連携・協働することができた。	継続
黒磯支所 地域福祉係	◆福祉総合相談窓口を設置し、複雑化、複合化する相談に対し、関係機関と連携できるよう相談支援包括化推進員を配置対応する。	◆相談支援包括化推進員、関係機関と連携しながら、地域住民からの相談支援を行った。	◆関係機関と連携し相談支援を行った。	◆地域と関係機関との連携を図り、更なる体制づくりの強化。	B	◆総合相談窓口設置により相談窓口が充実した。	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
塩原支所 地域福祉係	<p>◆行政、専門機関、地域住民と密接に連携し、ネットワークを強化する。</p> <p>◆地域からの相談に適切に応じるための研修などを受講し、スキルアップを図る。</p>	<p>◆主な相談窓口である、市の窓口の他、民生委員・児童委員や包括、そして、塩原温泉病院と連携し、相談体制を維持できるように努めた。</p>	<p>◆特に塩原温泉病院と心配な人の状況を共有することができ、関係各機関と連携しながら問題に対応してきた。</p>	<p>◆塩原温泉病院との更なる交流と情報の共有</p>	B	<p>◆各機関と連携しながら問題に対応できたため。</p>	継続
総務・経理係	<p>◆社協だよりとこども社協だよりをそれぞれ年2回ずつ発行する。</p> <p>◆社協からの最新の情報をHP、SNSに掲載する。</p>	<p>◆社協だよりを各戸配布、班回覧を1回ずつ行った。こども社協だよりは年2回小中学校に配布した。</p> <p>◆社協の事業等の情報をHP、Facebookを利用し発信した。</p>	<p>◆社協だよりやHP、Facebookを利用し、各種相談窓口の情報を周知することができた。</p>	<p>◆HP、SNSの知名度を上げる。</p>	B	<p>◆社協からの情報発信は行うことができています。</p>	継続
生活支援係	<p>◆福祉総合相談窓口が設置され、複雑化、複合化する相談に対し、関係機関と連携を図る。</p>	<p>◆総合相談窓口が設置され、日常生活自立支援事業だけでは支援困難な方の相談、関係機関との連携を図り、支援を行うことができた。(7件)</p> <p>◆集合およびオンライン等での研修等に参加しスキルアップを図った。</p> <p>○日常生活支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人後見研修(年数回)</li> <li>・専門員研修(年1回)</li> <li>・支援員研修(年1回)</li> <li>・担当者会議(年数回)</li> <li>・後見制度研修(年数回)</li> </ul> <p>等に参加。</p> <p>◆パンフレットや広報誌を通じ、相談窓口の情報提供を行った。</p> <p>◆会議の開催・参加等を通じて、関係機関とのネットワークを強化した。</p> <p>支援調整会議開催(3回)、重層的支援会議、にしなすけアネット参加。</p>	<p>◆福祉総合相談窓口の設置により、複雑・複合化した課題を持つ方への支援を展開することができた。</p> <p>◆会議の開催・参加等を通じて、関係機関とのネットワークを強化した。</p>	<p>◆一度では解決に至らない方もいるため、関係機関との連携を図り、継続した支援を展開する必要がある。</p> <p>◆コロナ禍で会議を開催できない時期があったので、通年での開催に努める。</p>	B	<p>◆相談体制ができ、支援困難な方への支援が、関係機関を巻き込んで実施できたため。</p> <p>◆関係機関とのネットワークを強化した</p>	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
福祉サービス 支援係	◆地域住民や関係機関と連携して支援が必要な高齢者、障害者等の情報共有や支援につなげる相談体制の構築に努める。	◆組織内の他部署、行政、民生委員等と連携し、支援が必要な利用者へのアプローチや介入のための家屋内清掃等を行った。また、自立支援協議会や地域包括支援センター等と連携し、困難事例の対応に努めた。	◆地域住民や関係機関と連携が図れた。組織内では個別支援から出たニーズを地域支援につなぐ仕組みづくりが必要。	◆個別支援を行う中で出てきたニーズについて、地域で対応できるような仕組みやインフォーマルサービスを作る。	B	◆個別支援から地域支援への視点は共有できたが、さらに事例を増やす必要がある。	継続
ボランティア センター	◆ボランティアセンター情報誌を発行し相談窓口としての情報を周知	◆ボランティアセンター本所・ボランティアセンター黒磯とともに『地域に開かれた存在』としてボランティアの窓口として定着してきた。新型コロナウイルスも落ち着き徐々に相談件数は増えてきた。 ボランティア相談者数 R01年度1月末… 4,013件 R02年度1月末… 1,936件 R03年度1月末… 1,623件 R04年度1月末… 2,182件	◆コロナ禍では、あったが関係機関との連携や情報が少ない中でも積極的に情報の発信を行った結果、相談者や来場者が増えた。	◆コロナ禍で情報が少ない中でも、アンテナを高くして、ニーズに合った情報のキャッチやその時代に合った仕組み作りを進めて行く。	A	◆コロナ禍でも情報発信や新たな取組等を行うことが出来た。	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 地域の中で困っている人がいたときには、各種相談窓口にご相談するよう勧めます。
- ▶ 市や社協の広報紙やホームページなどで相談窓口を確認します。
- ▶ 地域包括支援センターなどの専門機関や民生委員・児童委員の業務を理解し、連絡先を地域で共有します。

所管	R4実績
地域支援係	<p>◆市、社協広報紙及びホームページにより相談窓口を確認し、相談先の紹介や相談を受けた。また社協facebookで情報収集し、相談を受けた。公式Lineアカウントを登録し、「オレンジドアにしなす」や「こども夢くらぶ」の情報やひきこもり不登校支援の会・相談会「あおぞらのいす」の情報を得ることで地域での相談を受けた。</p> <p>◆福祉総合相談へ関わっているケースをつないだり、必要な方に紹介したりした。</p>
黒磯支所地域福祉係	<p>◆地域で困っている人からの相談を、地域包括支援センター、社会福祉協議会の相談窓口を紹介した。</p> <p>◆相談支援包括化推進員や相談窓口の情報提供を行った。</p> <p>◆社協で実施した相談会（相談+お米配布）の情報を提供した。</p>
塩原支所地域福祉係	<p>◆福祉的な困りごとは、主に、市、自治会長、民生委員・児童委員、包括、社協に相談し、包括や社協（地域支え合い推進員）から必要な情報の提供を受けた。特に、塩原温泉病院における通院や入退院に関して困ったことについては、温泉病院に相談し、その後、社協に支援を受けた。</p>
総務・経理係	<p>◆相談窓口を知るために、社協だよりや社協HPから情報を得ている。</p>
生活支援係	<p>◆地域で経済的に困っている人に対し、お米配布会の周知・同行し相談につなげた。</p>

令和4年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり

施策の方向性 1 誰もが利用しやすい体制・情報提供の充実

今後の取組 (2) **福祉に関する情報提供の充実**

① **行政**

- ▶ 福祉関連NPO法人、福祉事業者、福祉協力店などと連携し、情報提供を行います。
- ▶ 個人情報の保護に配慮しつつ、地域と連携する仕組みを検討します。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (社会福祉課)	<p>◆災害発生時に備え、個人情報の保護に配慮しつつ、避難行動要支援者支援制度を推進し、平常時から地域の連携を強化する仕組みづくりに努める。</p> <p>◆多機関協働事業において適切に情報共有と連携を行う</p>	<p>◆自治会、民生委員に対し、全体会や定例会等で避難行動要支援者支援制度の説明会を行い、周知啓発を図った。</p> <p>◆避難行動要支援者に対して個人情報提供に係る同意確認を行った。</p> <p>◆避難支援等関係者に対する同意者名簿の提供について、個人情報の取扱いに関する協定を締結した上で、自治会に対して同意者名簿を提供し、個別計画の作成を依頼した。</p> <p>◆避難行動要支援者名簿を、地域との情報共有の同意を得た上で共有した。</p> <p>◆福祉総合相談窓口において、相談者の同意を得た上で、関係機関等と情報共有した。</p>	<p>◆避難行動要支援者制度について2自治会が新規協定締結</p> <p>◆令和4年度の要支援者中の個別計画策定率は、59.1%</p> <p>◆関係機関において情報共有しながら対応することができた。</p> <p>◆情報共有を推進するための個人情報の扱いについての理解が不足している。</p>	<p>◆避難行動要支援者制度について、未協定自治会に対して粘り強く制度の趣旨を周知していき、協定数を増やしていく。</p> <p>◆地域において適切な個人情報の扱いについて周知を行う。</p>	B	<p>◆避難行動要支援者制度について、個別計画の作成数や協定自治会数が増えた。</p> <p>◆地域や関係機関での情報共有や連携が進んだ。</p>	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (高齢福祉課)	<p>◆福祉関連NPO法人、福祉事業者、福祉協力店などと連携し、福祉の情報提供を行う。</p> <p>◆災害発生時に備え、個人情報保護に配慮しつつ、避難行動要支援者支援制度を推進し、平常時から地域の連携を強化する仕組みづくりに努める。</p>	<p>◆公立公民館区に地域支え合い推進員（合計15名）を配置し、地域の困りごとなどの把握、解決に向けた話し合いを行いながら、見守り助け合う地域づくりに取り組んだ。</p> <p>◆見守り活動等を実施した自治会等の数 H30…73 R1 …84 R2 …111 R3 …122 R4 …137（R5.2末現在）</p>	<p>◆地域包括支援センターや地域支え合い推進員が、地域における会議や活動を通じて、住民や事業所等と連携できる体制を拡充することができた。</p> <p>◆新型コロナウイルス感染症の影響により、地域での見守り活動や、地域支え合い推進員による組織立ち上げの支援等が十分行えなかった。</p>	<p>◆見守り活動が未実施となっている自治会等に対して、引き続き地域支え合い推進員による働きかけを行い、取組への参加を粘り強く呼びかける。</p> <p>◆地域支え合い推進員による見守り組織の立ち上げ支援を計画的に行っていく。</p>	B	<p>◆見守り活動を実施する自治会等の数が増えたことにより、地域の連携体制を拡充することができたため。（第8期高齢福祉計画値R4 120箇所）</p>	継続
子ども未来部	<p>◆NPO法人と連携し、子育てに関する情報を提供する。</p>	<p>◆親子つどいの広場をNPO法人に委託し、連携しながら情報の提供や共有ができた。</p> <p>◆子育てサロンの開催場所や時間を掲載したサロンマップを作成し、保健センターや庁舎窓口に設置した。</p> <p>◆子育てコンシェルジュが子育てサロンを訪問し、情報提供を行った。</p>	<p>◆子育てサロンマップに掲載し、紙による開催場所や時間の周知はできた。より一層子育て世代への周知を図るため、SNSの利用の検討が必要。</p>	<p>◆適時適切な情報が提供できるようにするとともに、withコロナのサロン運営が求められる。</p>	B	<p>◆子育てコンシェルジュによる周知活動で情報提供の充実が図られたが、更なる工夫が必要であるため。</p>	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 社協だよりやホームページなどの内容の充実に努め、また、福祉協力店などを活用し、地域住民へ福祉サービスなどの情報を提供します。
- ▶ 地域ごとの広報紙の作成などによる情報提供の仕組みづくりの支援の方法について検討します。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	◆地域住民へ福祉情報の提供の強化	◆地域壁新聞、福祉協力店の情報をホームページに掲載し、更新に努めた。 ◆地域福祉活動補助金制度で自治会の広報誌発行支援 ◆facebookを活用し、情報発信に努めた。 ◆状況に応じた相談先をまとめたリンクサイトを作成した。	◆地域住民へ福祉情報の提供・支援ができた。	◆地域で実施している福祉活動の周知 ◆より多世代に届くようなSNSの活用。	B	◆facebookを活用し情報発信に努めた。 ◆相談先リンクサイトを作成し周知した。	継続
黒磯支所	◆地域住民へ福祉情報の提供の強化	◆地域の会報誌に各相談先一覧を入れ全戸配布した。 ◆地区内の福祉関係機関と住民が一堂に会し情報提供する場をつくった。 ◆社協だより、Facebook、壁新聞を活用し、より多くの住民へ情報提供を行った。	◆SNS、紙媒体、双方の利点を生かした情報発信の強化。	◆地域住民、関係機関を巻き込んだ情報の発信をすすめる。	B	◆SNS利用により幅広い層への情報発信ができた。	継続
塩原支所	◆福祉協力店制度の見直しや広報紙等を活用し、地域住民へ質の高い情報提供をする。	◆前年同様、コロナ禍のため、地域に向いてのPRは行わず、ホームページや広報誌により福祉サービスの案内を行った。	◆門前地区においては、社協の地域活動補助金を使って地域の広報誌を作成するなど有用な試みが行われた。	◆門前地区の試みを他の地域にも広める。	B	◆広く福祉情報を提供できるようにする。	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
総務・経理係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆社協だよりとこども社協だよりをそれぞれ年2回ずつ発行する。</li> <li>◆社協からの最新の情報をHP、SNSに掲載する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆社協だよりは特集号やパンフレット、こども社協だよりを発行するなど、ターゲットを意識した記事を作成した。</li> <li>◆HP、Facebookを利用し社協の事業等の情報を発信した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆社協だよりやHP、Facebookを利用し、福祉サービスの情報を発信することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ホームページ、SNSの投稿内容の充実を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆社協だよりのリニューアル化を図った。</li> </ul>	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 地域ごとで広報紙の作成などによる情報提供の仕組みづくりを検討します。
- ▶ 閲覧板や広報紙などをみる習慣を身につけます。
- ▶ 地域の中で福祉に関する情報を共有するように努めます。

所管	R4実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自治会での広報誌を発行し、福祉活動の情報を発信した。</li> <li>◆公民館等で福祉に関する情報の掲示</li> <li>◆コミュニティで広報誌を発行し、福祉活動の情報を発信した。</li> <li>◆地域で話し合いの場を設け、地域課題や情報交換をした。</li> <li>◆市と社協で開催した地域座談会に参加し情報交換をした。</li> <li>◆住民助け合い事業研修会（オンライン）に参加し、情報交換をし、地域の話し合いをした。</li> </ul>
黒磯支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域で困っている人からの相談を、地域包括支援センター、社会福祉協議会の相談窓口を紹介した。</li> <li>◆相談支援包括化推進員や相談窓口の情報提供を行った。</li> <li>◆社協で実施した相談会（相談+お米配布）の情報を提供した。</li> </ul>
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆福祉に関する情報は、市の地域座談会や市・社協の広報の他、塩原温泉病院やしおばら地域包括支援センター等の関係機関から受けた。</li> </ul>
総務・経理係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆各戸配布されている社協だよりや小中学校に配布しているところまるだより、パンフレット等から福祉の情報を得ている。</li> </ul>

令和4年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり

施策の方向性 2 地域福祉のニーズキャッチの充実

今後の取組 (1) **地域における福祉活動を通じたニーズキャッチ**

① 行政

- ▶ 地域における、子ども、高齢者、避難行動要支援者などの見守り活動などを通じたニーズをキャッチする仕組みづくりを推進します。
- ▶ 積極的に地域へ出向いて、ニーズをキャッチする仕組みを検討します（アウトリーチ）。
- ▶ 福祉関連NPO法人、福祉事業者、福祉協力店などと連携し、ニーズのキャッチに努めます。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (社会福祉課)	<p>◆見守り活動等により把握された地域の課題について受け止め、早期対応を図る体制を構築する。</p> <p>◆地域自立支援協議会の各専門部会において福祉事業者や当事者から地域課題の抽出を行う。</p>	<p>◆各相談支援機関の連携による包括的相談支援構築により、見守り活動の中で把握した課題について、受け止め、的確につなぐ体制づくりに向けて取組を行った。</p> <p>◆民生委員児童委員の定例会や地域包括支援センター、地域支え合い推進員等の会合に出席し、取組の説明を行った。</p> <p>◆地域自立支援協議会の各委員の意見や専門部会における活動により、地域課題の抽出を行っている。</p> <p>◆那須塩原市障害者計画策定に係る障害者及び障害児の保護者向けアンケート（ニーズ調査）を実施した。</p>	<p>◆福祉総合相談窓口を中心とした包括的な相談支援体制が徐々に構築されてきている。</p> <p>◆定例会、地域ケア会議等に参加し、毎回説明を行うことで、包括的相談支援体制について、理解が進んできている。</p> <p>◆地域自立支援協議会を通して地域における課題を抽出できた。今後は、定期的に障害者本人及び障害児の保護者のニーズを把握する機会を増やす必要がある。</p>	<p>◆地域や各相談支援機関への周知徹底</p> <p>◆地域自立支援協議会や相談支援事業所、サービス提供事業所等と連携し、ニーズや地域課題を把握し、計画や施策（事業）に反映する。</p>	B	<p>◆包括的相談支援体制について少しずつ認知されてきている。</p> <p>◆当事者部会の活動は思うようにできなかったが、地域自立支援協議会の活動等を通して地域課題を抽出することができた。</p>	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (高齢福祉課)	<p>◆地域における、子ども、高齢者、避難行動要支援者などの見守り活動などを通じたニーズをキャッチする仕組みづくりを推進する。</p> <p>◆積極的に地域に出向いて、ニーズをキャッチする。</p> <p>◆福祉関連NPO法人、福祉事業者、福祉協力店などと連携し、ニーズをキャッチする。</p> <p>◆地域ケア会議や協議体（見守り活動等の実施団体など）の設置し、ニーズをキャッチする。</p>	<p>◆協議体（見守り活動等の実施団体） H30…73 R1 …84 R2 …111 R3 …122 R4 …137（R5.2末現在）</p> <p>◆地域ケア会議の開催 各地域包括支援センターが黒磯（7圏域）・西那須野（2圏域）・塩原（1圏域）を対象に開催</p>	<p>◆地域包括支援センターや地域支え合い推進員が、地域における会議や活動を通じて、住民や事業所等と連携できる体制を拡充することができた。</p> <p>◆新型コロナウイルス感染症の影響により、地域での見守り活動や、地域支え合い推進員による組織立ち上げの支援等が十分行えなかった。</p>	<p>◆地域課題について話し合う場やニーズを把握する場として、見守り活動を実施する自治会等を増やしていく。</p> <p>◆地域支え合い推進員による見守り組織の立ち上げ支援を計画的に行っていく。</p>	B	<p>◆見守り活動を実施する自治会等の数が増えたことにより、地域の連携体制を拡充することができたため。（第8期高齢福祉計画値R4 120箇所）</p>	継続
子ども未来部	<p>◆地域における子どもの見守り活動やNPO法人等と連携し、ニーズのキャッチに努める。</p> <p>◆福祉関連NPO法人と連携し、ニーズのキャッチに努める。</p>	<p>◆ファミリーサポートセンターの運営と公設放課後児童クラブの運営を委託しているそれぞれのNPO法人と意見交換等を実施した。</p> <p>◆民生委員児童委員を通じて情報共有を図り、現状把握に努めた。</p> <p>◆市民が参加するヤングケアラー協議会、市とヤングケアラー協議会メンバーによる連携会議でヤングケアラーの抱える課題について共有した。</p> <p>◆要支援児童放課後応援事業を委託しているNPOとの意見交換会を実施した。</p>	<p>◆令和3年度までの実施内容を継続して行った。</p> <p>◆新たにヤングケアラーへの課題について、市民団体との連携をスタートさせた。</p>	<p>◆今後も継続して市民の声、ニーズを共有し、課題解決に向けた取り組みを行っていく。</p> <p>◆ヤングケアラーなど、新たな課題へのニーズの把握に努める。</p>	B	<p>◆新たな課題に市民団体メンバーと連携した取り組みを行うことができた。今後も継続してニーズの把握に努める。</p>	継続

② 社会福祉協議会

- ▶ 職員が積極的に地域に出向き、支援が必要な人の情報をキャッチするよう努めます（アウトリーチ）。
- ▶ 社協が行う高齢者、障害者、生活困窮者などに対する事業を展開する中で、支援が必要な人の早期発見に努めます。
- ▶ 各種福祉団体との連携の中で、支援が必要な人の早期発見に努めます。
- ▶ 地域の中で支援が必要な人の情報が共有できるような仕組みづくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 日頃からの見守り活動を通じて生活の中で異変に気づいた際に専門機関などに連絡するような体制づくりを支援します。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域住民助け合い事業の実施</li> <li>◆配食サービス事業の実施</li> <li>◆心身障害児者父母の会との連携</li> <li>◆当事者会やピアサポートの場との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆コロナ禍でも自治会の見守り活動を支援し、見守り対象者の情報を共有</li> <li>◆見守り活動を通じて、地域の中の心配な方の早期発見に努めた。</li> <li>◆配食サービス事業の配達ボランティアと地域支え合い推進員と連携し利用者の情報を共有。</li> <li>◆ケアラズカフェなどの場に出向きアウトリーチを意識した。</li> <li>◆ケアラーLINE相談やひきこもり・不登校の相談をLINEを活用し対応している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域の方や関係機関との連携を活用したニーズキャッチを行い、LINEを用いたSNSの相談を多機関協働し運営した。総合相談を設置したことにより、地域からの相談が増えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆支援が必要な人を早期発見できるような支援体制の構築とより広い情報の周知が必要</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆総合相談設置により、相談先の明確化と早期対応が可能になった</li> </ul>	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
黒磯支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域住民助け合い事業の実施</li> <li>◆給食サービス事業の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆見守り活動や居場所などで心配な人の情報を共有し関係機関と連携した。</li> <li>◆給食サービスにて配送より利用者変化の報告があった際には、関係機関に報告した。(場合によっては訪問)</li> <li>◆地域包括支援センターやサロン、居場所との関係性をつくり、相談援助と専門機関へつなぐ役割を果たした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆支援が必要な人の情報が得られ支援につながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域住民との関係性を強化し、異変に気づいた際の連絡体制を充実させる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆支援が必要な人の情報を共有し支援につながった。</li> </ul>	継続
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆積極的に地域に出向き、支援が必要な人の情報をキャッチするよう努める。</li> <li>◆地域の中で支援が必要な人の情報が共有できるような仕組みづくりの支援方法について検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆コロナ禍のため、地域に出向いてのアウトリーチは自粛したが、web会議を活用し、特に、塩原温泉病院との連携に努め、支援が必要な人の把握に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆アウトリーチを控えたので、関係機関等から届いた個別支援が必要な問題に対応した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆状況を見ながらアウトリーチに努める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆個別支援はある程度行う事が出来た。</li> </ul>	継続
生活支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆支援が必要な方のニーズキャッチをし、民生委員や関係機関と連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆お米配布会を実施し、支援が必要な人のニーズキャッチに努めた。</li> <li>お米配布会開催(黒磯・西那須野地区各1回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆お米配布会を実施し、支援が必要な人のニーズキャッチに努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開催地区・回数を拡充し、更なる支援が必要な人のニーズキャッチを行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆支援が必要な人のニーズキャッチに努めた</li> </ul>	継続
福祉サービス支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域住民や関係機関と連携して支援が必要な高齢者、障害者等の情報共有や支援につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆組織内の他部署、行政、民生委員等と情報を共有し、支援が必要な利用者へのアプローチや介入のための家屋内清掃等を行った。相談の段階で必要な支援を判断し早期に関係機関と連携しサービスにつないだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域で支援が必要な利用者として、困窮者支援から日常生活自立支援事業、さらに居宅介護支援と継続した支援を実施出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆個別支援から出たニーズをその地域のニーズとしてとらえ、同様に困っている住民がいないかアウトリーチする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆さらにアウトリーチが必要のため。</li> </ul>	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
ボランティアセンター	◆社協の福祉総合相談窓口が設置され、複雑化、複合化する相談に対し、ボラセンとしても他機関とより連携を強化し、地域課題の解決に取り組む。	◆コロナ禍で施設や自宅での傾聴活動が出来ず活動が縮小していた傾聴ボランティアを、ボランティアセンターを会場に、新たな傾聴ボランティアの仕組みをボランティアと作り、地域で孤立している高齢者や精神に疾患のある方を傾聴ボランティアにつないだ。	◆コロナ禍では、あったが関係機関との連携を行い、新たな取り組みを行い、支援が必要な方の体制作りを行った。	◆状況や時代に合った仕組み作りを進めて行く。	A	◆支援が必要な人のため、外部団体や社協の他の係と連携し、支援に関わることができた。	継続
つくし	◆個々の利用者の問題、課題状況を把握し、個別支援から地域課題へ繋げられるように、必要な支援、サービスを関係機関と連携し進めていく。 ◆利用希望者等の見学や実習を受け入れ、支援が必要な人への適切な対応に努める。	◆施設周辺などからつくしへ繋がらる障害者の情報は得られなかった。 ◆現在のつくし利用者の地域生活においては、担当者会議や施設内の職員打合せで情報共有していくことができた。	◆個人の生活状況や家族状況の変化に合わせた支援を行えた。	◆施設利用者の生活する地域での活動の把握に努め、その地域の活動につなげる支援の視点を持って仕事に取り組む。	B	◆地域課題につなげられるケースがでてこなかった。	継続
心の里	◆個々の利用者の問題、課題状況を把握し、個別支援から地域課題へ繋げられるように、必要な支援、サービスを関係機関と連携し進めていく。 ◆利用希望者等の見学や実習を受け入れ、支援が必要な人への適切な対応に努める。	◆相談支援員だけではなく、他部署の困窮係等との情報共有、連携を図り、施設利用に繋がった。 ◆実習の受け入れも再開し、R5年度に施設利用になった。	◆他部署への相談者を施設に紹介し、利用開始となった。支援の成果も出ている。連携や情報共有が図れている。	◆社会福祉協議会の強みを生かした包括的、且つ継続的な支援が出来るようにする。	B	◆他部署へ相談に来た方の情報を施設への情報共有し、その後相談、実習体験などを実施し施設利用開始となった。 ◆在宅から地域への移行のきっかけとなり、利用者の生活スタイルの幅が広がった。	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
ふれあいの森	<p>◆施設内において、利用者の変化を察知しいち早くニーズを捉える体制づくりを徹底する。</p> <p>◆利用者や保護者の方の根底にあるニーズキャッチが出来るように、個別面談等を行う。</p>	<p>◆コロナの影響が続き、行事なども減り、保護者との関わりも減少。そのような中であっても、連絡帳や電話での連絡など日頃からの関係性を大切にし、相談しやすい環境作りを心がけた。</p> <p>◆利用者のように、変化など相談支援員へ連絡し、情報共有に務めた。</p>	<p>◆コロナ禍が続き、思うように保護者の方と話をする機会が作れなかった。</p> <p>◆少ない機会のなかでも、できるだけ寄り添いながら話をする事でニーズキャッチに努めた</p>	<p>◆コロナによる制限は解除されたものの不安が無くなったわけではない。</p> <p>◆今後も保護者との関係を大切にしながら、日頃から相談できる関係づくりを目指す。</p>	B	◆今後も保護者や相談支援員と連携しながら進めていく	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 地域見守り活動や、地域ケア会議などを通じて、課題やニーズをキャッチします。
- ▶ 地域の中で支援が必要な人の情報を共有する方法について検討します。
- ▶ 日頃からの見守りや、日頃の生活の中で認知症、生活困窮、孤立などから生じる異変や虐待に気づいた際には、行政、民生委員・児童委員、社協、地域包括支援センターなどに連絡します。

所管	R4実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自治会での見守り活動を通じて、支援者の情報共有や関係機関の連携を行った。</li> <li>◆地域ケア会議（会場やオンライン）に参加し、地域の課題について検討し、さらにその課題についての勉強会、検討会に参加した。</li> <li>◆市と社協で開催した地域座談会に参加し情報交換をした。</li> <li>◆井戸端サロンやかりのかたり場に参加し、情報交換をし、地域の話し合いをした。</li> </ul>
黒磯支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域で困っている人からの相談を、地域包括支援センター、社会福祉協議会の相談窓口を紹介した。</li> <li>◆相談支援包括化推進員や相談窓口の情報提供を行った。</li> <li>◆社協で実施した相談会（相談+お米配布）の情報を提供した。</li> </ul>
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆福祉的な困りごとがあったときは、行政、自治会長、民生委員・児童委員、包括、社協に相談し、その後、主に包括や社協（地域支え合い推進員）と情報を共有し見守りを行った。特に、塩原温泉病院の通院、入退院患者については、塩原地域支援会議で支援策の検討を受けた。</li> </ul>
生活支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域ケア会議に参加し地域の課題やニーズを把握した。</li> <li>◆地域で経済的に困っている人に対し、社協等の関係機関につなぎ、相談・食糧支援につなげた。</li> <li>◆地域の中で支援が必要な人の情報を福祉相談窓口と共有し、実際の支援を展開することができた。</li> </ul>
つくし	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆引き続き新型コロナウイルス感染症対策の影響で、年間行事やイベントの中止が続き販売活動を通して地域交流が図れなかった。</li> </ul>
ふれあいの森	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆昨年に引き続き、利用者及び保護者との個別面談等によりニーズを把握し、必要に応じ他機関との連携に努めている。</li> <li>◆相談支援専門員等と情報共有を行い、より良い支援に結びつくように努めている。</li> </ul>
心の里	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆昨年度に引き続きスポーツイベントや行事等が中止になり、対面での地域交流はできなかったが、埼玉コミュニティ推進協議会との連携でオンライン盆踊り、ふれあい広場の共同動画作成など、新しい形の交流ができた。</li> <li>◆利用者の健康の保持増進の為、施設内レクリエーションや屋外の散歩等を定期的実施した。</li> <li>◆相談支援員、他事業所等、利用者に係る機関と密に連絡をとり、利用者が安心してサービスを利用できるよう支援した。</li> </ul>

令和4年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり  
 施策の方向性 2 地域福祉のニーズキャッチの充実  
 今後の取組 (2) **民生委員・児童委員と連携したニーズキャッチ**  
 ① **行政**

▶ 民生委員・児童委員と自治会などが連携協力し、地域における福祉ニーズをキャッチする仕組みづくりを推進します。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (社会福祉課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆民生委員児童委員との連携を図り、地域のニーズをキャッチする体制を構築する。</li> <li>◆民生委員活動の中、生活に困窮する者の発見及び見守り活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆民生委員の定例会に、行政の立場として参加し、地域の福祉需要の情報収集に努めた。</li> <li>◆民生委員より生活困窮者に対し相談窓口への案内を行った。</li> <li>◆民生委員の委嘱・交代の際に、担当区域自治会長へ情報提供を行った。</li> <li>◆コロナ禍により対面での訪問活動が難しい期間でも、民生委員の連絡先を記載したチラシの投函訪問や電話連絡、点灯確認などの見守りを行い、異変があった際に市へ引継ぎを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆感染対策を講じながら、徐々に活動の幅を広げ、地域のニーズを把握することができた。</li> <li>◆定例会において、情報収集・提供に努め、個別の相談事案について関係部署等につないだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆民生委員の定例会に引き続き出席し、地域での困りことなど、福祉の需要の情報収集に努める。</li> <li>◆民生委員へのきめ細やかな情報提供及び相互連絡を行うことにより、ニーズの把握や生活困窮者の早期発見・対応につながる。</li> <li>◆感染症の影響による地域の変化や、個人の問題の深刻化などを把握し、必要な支援に繋げる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆状況に応じた対策を検討し、情報収集を滞りなく行う必要があるため。</li> </ul>	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (高齢福祉課)	<p>◆民生委員児童委員との連携を図り、地域のニーズをキャッチする体制を構築する。</p> <p>◆民生委員活動の中、生活に困窮する者の発見及び見守り活動を行う。</p>	<p>◆地域ケア会議や協議体に参加する民生委員等を連携し、ニーズのキャッチに取り組んだ。</p> <p>・協議体（見守り活動等の実施団体） H30…73 R1 …84 R2 …111 R3 …122 R4 …137（R5.2末現在）</p> <p>・地域ケア会議の開催 各地域包括支援センターが黒磯（7圏域）・西那須野（2圏域）・塩原（1圏域）を対象に開催</p>	<p>◆見守り活動の実施や地域ケア会議の開催により、民生委員児童委員と連携して、地域ニーズを把握することができた。</p> <p>◆新型コロナウイルス感染症の影響により、地域での見守り活動や、地域支え合い推進員による組織立ち上げの支援等が十分行えなかった。</p>	<p>◆地域課題について話し合う場やニーズを把握する場として、見守り活動を実施する自治会等を増やしていく。</p> <p>◆地域支え合い推進員による見守り組織の立ち上げ支援を計画的に行っていく。</p>	B	◆見守り活動を実施する自治会等の数が増えたことにより、地域の連携体制を拡充することができたため。（第8期高齢福祉計画値R4 120箇所）	継続
子ども未来部	<p>◆民生委員と連携し、ニーズのキャッチに努める。</p>	<p>◆地区定例会、専門部会に出席し、情報を共有することができた。</p> <p>◆児童委員、主任児童委員が今後どう活動したらよいか、と意見をいただいた。今後の課題としてきたい。</p> <p>◆専門部会では視察研修等を開催することができた。</p> <p>◆ヤングケアラーに関する講演を開催し、課題について理解を深めた。</p>	<p>◆民生委員児童委員の会議等に出席し、地域の現状の把握に努め、情報提供及び提供方法の確認を行った。</p> <p>◆主任児童委員の活動について検討が必要。</p>	<p>◆児童委員、主任児童委員の地域での見守り活動について検討する。</p>	B	◆地区定例会、専門部会に出席し課題を共有することができた。	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 民生委員・児童委員と情報の共有や連携を強化し、ニーズのキャッチに努めます。
- ▶ 民生委員・児童委員と地域住民が連携し、地域のニーズをキャッチする仕組みづくりを支援します。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆民生委員・児童委員との情報共有及び連携強化</li> <li>◆福祉総合相談窓口設置を起点に更なる民生委員・児童委員との連携を強化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地区定例会に参加し、情報の共有及び連携の強化を図る。</li> <li>◆民生委員と連携し、自治会の見守り活動を推進し、心配な方を支援した。</li> <li>◆民生委員とこども子育て総合センターと連携し、支援が必要な世帯へ無料ヘアカット券を配布し相談しやすい環境づくりを構築した。</li> <li>◆子どもの居場所を民生委員と連携し充実させた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆民生委員と連携し情報を共有し、地域支援を行った</li> <li>◆総合相談窓口の周知をしたことで民生委員が関係するケースの相談があった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域のニーズをキャッチする仕組みづくりの強化</li> <li>◆民生委員の定例会の場での更なるケース共有</li> </ul>	B	◆民生委員と連携し情報を共有した。	継続
黒磯支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆民生委員・児童委員との情報共有及び連携強化</li> <li>◆福祉総合相談窓口設置を起点に更なる民生委員・児童委員との連携を強化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地区民児協定例会に出席することにより、情報共有が図れ、関係機関と連携がとれた。</li> <li>◆民児委員に見守り報告会や協議体へ参加してもらい、情報共有ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆民児協定例会などで、地域の情報共有ができ連携がとれた。</li> <li>◆民児委員と同行訪問し状況把握をした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆見守り活動を支援し、民児委員や相談窓口との連携の強化を図る。</li> </ul>	B	◆民児委員と地域情報を共有し連携できた。	継続
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆民生委員児童委員と情報の共有や連携を強化し、ニーズキャッチに努める。</li> <li>◆民生委員児童委員と地域住民が連携し、地域のニーズキャッチをするための仕組みづくりを支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆コロナ禍のため、民児協定例会が開催されず、会合での意見交換はできなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆会合での意見交換はできなかったが、個別の支援事例においては、主に、推進員＝塩原地区民児協会長を介して、状況を共有のうえ、意見交換し、対応できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆会合下において、多くの委員の意見交換を図りたい。</li> </ul>	B	◆ある程度の問題共有、意見交換、対応はできた。	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 日頃から民生委員・児童委員の業務を理解し、自分の住んでいる地域で支援を必要としている人を担当している民生委員・児童委員を把握します。
- ▶ 民生委員・児童委員と地域住民が連携し、地域のニーズをキャッチする仕組みづくりに協力します。

所管	R4実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆コロナ禍で自治会の福祉活動（友愛訪問・生きがいサロンなど）を民生委員・児童委員と連携して実施</li> <li>◆見守り活動を通して、民生委員・児童委員や社協の地域支え合い推進員と連携し心配な人の支援にあたった。</li> <li>◆子どもの居場所を民生委員児童委員と一緒に運営した。</li> </ul>
黒磯支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆民児協定例会にて事例報告をし各関係機関と情報の共有を行った。</li> <li>◆見守り活動や協議体をとおして民生委員との密な関係性を構築し、必要な情報提供、関係機関への紹介を行った。</li> <li>◆民生委員が自治会の見守り活動に協力し、心配な方の情報を共有している。</li> </ul>
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆困りごとの多くは、自分が住んでいる区域担当の民生委員・児童委員に相談し、専門的な問題については、関係機関につながれた。</li> </ul>

## 令和4年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり

施策の方向性 3 福祉サービスの充実と権利擁護の推進

今後の取組 (1) 日常生活を支援する地域における福祉活動の充実

## ① 行政

- ▶ 地域課題の解決のための体制づくりを推進します。
- ▶ ごみ出し、買い物、通院などのボランティアの仕組みづくりを推進します。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (社会福祉課)	<p>◆地域課題の解決のための体制づくりを推進する。</p> <p>◆地域座談会（報告会）の開催</p> <p>◆地区社協設立に向けた支援</p>	<p>◆地域課題の解決のための体制づくりの推進として、社会福祉協議会における地区社協設置に向けた取組の進捗状況を把握し、今後の設置計画に対する相談支援を行った。</p> <p>◆地域座談会（報告会）を開催し、昨年度開催した地域座談会で出た意見等の共有を図った。</p> <p>【地域座談会（報告会）】 3回開催</p> <p>◆地区社協設立に向けて、定期的に社会福祉協議会と情報交換を実施した。</p>	<p>◆四半期ごとの進捗状況確認、適宜打合せ会を実施。</p> <p>◆感染症による体制づくりの停滞などを考慮した推進計画を策定した。</p> <p>◆地域座談会（報告会）を開催し、地域の現状と課題を共有することができた。</p>	<p>◆社会福祉協議会と連携し、地域課題を住民主体で解決していくための地域づくりを、地域の実態に沿った形で構築できるよう検討する。</p> <p>◆社会福祉協議会と共に、引き続き、地域における協議の場を継続し、住民が自ら課題を解決する仕組みを構築する必要がある。</p>	B	<p>◆社会福祉協議会が、地域の実態や要望に沿った働きかけができるよう、引き続き、体制整備の支援が必要である。</p> <p>◆地域ごとに課題を話し合う協議の場の設置が進んでいる。</p>	継続
保健福祉部 (高齢福祉課)	<p>◆地域課題の解決のための体制（協議体）を整備し、見守りやごみ出し・買い物等の支援を行う担い手確保に取り組む。</p>	<p>◆協議体（見守り活動等の実施団体） H30…73 R1 …84 R2 …111 R3 …122 R4 …137（R5.2末現在）</p>	<p>◆見守り活動の実施団体が増加し、地域ニーズを把握できる体制、地域で見守り助け合うための担い手を拡充することができた。</p> <p>◆新型コロナウイルス感染症の影響により、地域での見守り活動や、地域支え合い推進員による組織立ち上げの支援等が十分行えなかった。</p>	<p>◆地域課題について話し合う場やニーズを把握する場として、見守り活動を実施する自治会等を増やしていく。</p> <p>◆地域支え合い推進員による見守り組織の立ち上げ支援を計画的に行っていく。</p>	B	<p>◆見守り活動を実施する自治会等の数が増えたことにより、地域の連携体制を拡充することができたため。（第8期高齢福祉計画値R4 120箇所）</p>	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で定期的に地域課題の解決に向けて話し合う場づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域の中で支援が必要な人に対する見守り活動や生活支援に関わるボランティアの仕組みづくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 福祉施設の中にある空きスペースなどを地域の居場所として活用できるよう支援の方法について検討します。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	◆福祉施設や公民館などの地域交流スペースなど活用した居場所づくりの支援(ヤングケアラー・若者ケアラーサロン立上げ、運営)	◆福祉施設の地域交流スペースなど活用した居場所が増えてきた。(ケアラー、当事者の居場所、こどもの居場所) ◆大山地区、南地区で4回、狩野地区では毎月1回(年12会回)の話し合いの場を開催した。 ◆医療的ケアネットワークをつくり、1回開催した。	◆圏域ごとの話し合いの場(協議体)を継続開催、新たに医療的ケアに関わるネットワークを組織した	◆福祉施設の空きスペースや個人のお宅を利用した居場所を有効活用した事業等の支援強化	B	◆協議体の継続開催、新たなネットワーク開発	継続
黒磯支所地域福祉係	◆福祉施設や公民館などの地域交流スペースなど活用した居場所づくりの支援(ヤングケアラー・若者ケアラーサロン立上げ、運営)	◆地域の居場所について話し合いの場を設けたり、候補地を探した。 ◆小中学生と地域住民との話し合いの場を設け、学習支援や集える場所、方法について話し合った。	◆地域住民と共に居場所づくりについての話し合いの場が持てた。	◆定期的に話し合いの場が持てるよう支援を行う。	B	◆地域住民と共に地域課題について検討できた。	継続
塩原支所地域福祉係	◆地域の中で定期的に地域課題の解決に向けて話し合う場づくりの支援方法について検討する。 ◆地域の中で支援が必要な人に対する見守り活動や生活支援に関わるボランティアの仕組みづくりの支援方法について検討する。	◆新規事業として始まった配食サービスのために必要な配達ボランティアを募った。	◆配食ボランティアを通じて地域の有用な情報を知る事が出来た。	◆配達ボランティアの人たちを中心に、ボランティア活動を広げる。	B	◆配食ボランティアを何とか募ることができた。	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
ボランティアセンター	◆社協の福祉総合相談窓口が設置され、複雑化、複合化する相談に対し、ボラセンとしても他機関とより連携を強化し、地域課題の解決に取り組む。	◆コロナ過で中止や不定期に開催していた、認知症当事者等が集まる認知症カフェをボランティアセンターで再開し利用している。 ・こどもの居場所や困窮者支援をしている関係機関と連携し関わりを持った。	◆新型コロナウイルスも落ち着き徐々にボランティアセンターが様々な団体などの活動拠点として利用されるようになった。	◆さまざまな地域課題に対し、ボランティアと連携し、地域に関わって行くことが必要。	B	◆支援が必要な人のため、外部団体や社協の他の係と連携し、活動に関わることができた。	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 定期的に地域課題の解決に向けて話し合う場を設け、市や社協などと連携して問題解決に努めます。
- ▶ 自分のできる範囲で、地域の中で支援が必要な人に対する見守り活動をします。
- ▶ ごみ出し、買い物、通院などの生活支援に関わるボランティアの仕組みづくりを検討します。
- ▶ 福祉施設の中にある空きスペースなどを地域の居場所として活用できるよう検討します。
- ▶ 自分のできる範囲で、ボランティア活動などに主体的に参加します。

所管	R4実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自治会の見守り活動を実施しているところと連携し、情報交換の場を設けたり、心配な人の支援にあたりたりした。</li> <li>◆井戸端サロンやかかりのかたり場などの情報交換の場や近所の自宅を利用した居場所に参加した。</li> <li>◆地域ケア会議（会場やオンライン）への参加し、地域の課題について検討し、さらにその課題についての勉強会、検討会に参加した。</li> </ul>
黒磯支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地区の情報交換会や自治会の班長会議などで地域課題や地域でできそうな福祉活動について話し合った。</li> <li>◆福祉協力店や廃校での居場所について活動が継続、発展していくよう努めた。</li> <li>◆検討中の地域での配食サービスについて自治会役員や民生委員だけでなく、地域住民にも声掛けを行って活動に参加している。</li> </ul>
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆コロナ禍により見守り等の会合が行われなかったため、困りごとは、塩原温泉病院、行政、自治会長、民生委員・児童委員、包括、社協に相談し、その後、主に行政、包括、社協（地域支え合い推進員・生活困窮者支援担当者・日常生活自立支援担当者）と福祉的な問題の解決に努めた。</li> </ul>

令和4年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり  
 施策の方向性 3 福祉サービスの充実と権利擁護の推進  
 今後の取組 (2) **支援が必要な人への福祉サービスの充実**

① 行政

- ▶ 障害がある人が、自立した日常生活又は社会生活を営めるよう、地域生活支援事業の充実を図ります。
- ▶ 認知症の人への支援の充実を図ります。
- ▶ スクールソーシャルワーカーを活用し、学校における諸問題を解決する仕組みの充実を図ります。
- ▶ ニーズキャッチで得た情報を活用し、ニーズに応じた福祉サービスの提供に努めます。
- ▶ 一時的に子どもを預けられる場の充実に努めます。
- ▶ 子育て中の親の孤立を防ぐ仕組みづくりを検討します。
- ▶ 地域における引きこもりや社会的な孤立を防止する仕組みを検討します。
- ▶ 個別計画を通じて、福祉サービスを提供する民間事業者の育成に努めます。
- ▶ 生活困窮者への支援体制の充実を図ります。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (社会福祉課 障害福祉係)	◆障害のある人が、自立した日常生活又は社会生活を営めるよう、日常生活用具給付事業を拡充する。 ◆認知症サポーター養成講座の開催 ◆認知症初期集中支援チームの設置	◆地域自立支援協議会の専門部会等において障害福祉サービス提供事業者における人材育成及びサービスの質の向上を図っている。	◆研修会や事例検討会により、サービスの質の向上が図られた。 ◆事業展開の拡充等については、事業者の経営面等からも国の制度や報酬などの影響が大きい。	◆日頃からニーズの把握に努め、制度の見直しや人材育成に取り組み、福祉サービスの量と質を向上させる。	B	◆関係機関と連携し、福祉サービスの充実について検討がなされているため。	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (社会福祉課 地域共生係)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自立相談支援事業の実施（就労その他自立に関する相談支援）</li> <li>◆住居確保給付金事業の実施（家賃相当額を支給）</li> <li>◆家計改善支援事業（家計管理に関する相談、指導）</li> <li>◆子どもの学習支援事業（学習環境を提供）</li> <li>◆就労準備支援事業（就労に必要な訓練等）</li> <li>◆生活困窮者自立支援金（求職活動を要件に最大30万円を支給）</li> <li>◆住民税非課税世帯等臨時特別給付金（住民税非課税世帯等に1世帯10万円を支給）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆生活困窮者自立支援事業(自立相談支援事業、家計改善支援事業、就労準備支援事業を一体的に実施)の実施（社会福祉協議会委託）</li> <li>◆学習支援事業の実施 市内3公民館で学習支援を実施</li> <li>◆自立支援金の支給</li> <li>◆住民税非課税世帯等臨時特別給付金の支給 【コロナ給付金】10万円 【価格高騰給付金】5万円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆生活困窮者自立支援事業の実施により、生活保護に至らない生活困窮者の支援を行うことができた。</li> <li>◆住民税非課税世帯に対する給付金をスムーズに支給することができ、コロナや価格高騰による生活困窮の支援を行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆生活困窮者自立支援事業をさらに周知し、活用を図る。</li> <li>◆一時的な給付金だけでなく、低所得者への継続的な支援策の検討が必要</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆制度の周知が徐々に進んでいる。</li> <li>◆給付金をスムーズに支給することができた。</li> </ul>	継続
保健福祉部 (高齢福祉課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆認知症サポーター養成講座の開催</li> <li>◆チームオレンジなすしおばらの立上げ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆認知症サポーター養成者数 (延べ) H30…5,875人 R1 …6,636人 R2 …6,656人 R3 …6,681人 R4 …7,139人 (R5.2月末現在)</li> <li>◆チームオレンジなすしおばらの立上げ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けするサポーターを増やすことができた。</li> <li>◆チームオレンジなすしおばらを立上げることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆小中学校、高校、自治会等への周知を行い、認知症サポーター養成講座を開催し、一人でも多くのサポーターを増やしていく。</li> <li>◆チームオレンジなすしおばらが効果的に活動できるよう支援を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆認知症サポーターの増加、チームオレンジなすしおばらの立上げにより、認知症の人と家族を地域で支える意識の啓発の一助となったため。</li> </ul>	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
子ども未来部	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆子育て中の親の孤立を防ぐ仕組みづくり</li> <li>◆一時的に子どもを預けられる場の充実に努めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆子育てコミュニティ広場の運営</li> <li>◆ファミリーサポートセンター</li> <li>◆生理の貧困問題への取組 <ul style="list-style-type: none"> <li>・病児・病後児保育（3か所※うち1か所でコロナ禍による一時休止期間あり）</li> </ul> </li> <li>◆休日保育（3か所）</li> <li>◆一時保育（9か所）</li> <li>◆子育てサロンを開催した。</li> <li>◆子育てコンシェルジュが個々の相談に応じた情報提供を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆休日や病気の子どもの預け先を確保することで、子育て支援の充実が図られた。</li> <li>◆子育てサロンや子育て短期支援事業を利用することで、育児不安の解消や家庭の安定につながり、安心して子育てができる環境が整っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆病児・病後児保育等については、今後の利用ニーズを見極めながら、実施施設や方法などの見直しを検討していく。</li> <li>◆子育て短期支援事業へのニーズが高まっており、申請者と委託先とのスムーズな連絡調整が必要</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆利用ニーズに応じた保育環境を提供することができた。</li> <li>◆子育て中の保護者の育児不安の解消に一定の効果がみられたが、更なる充実が必要であるため。</li> </ul>	継続
教育部	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆SSWrによるソーシャルワークの実施</li> <li>◆教職員研修の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆SSWrによる対応件数 2,201件（2月末現在）</li> <li>◆教職員研修会は開催していないが、ケース会議などの場を活用し、対応や支援方法について助言することで、教職員の資質向上の一助となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆SSWrが福祉サービス等の外部機関にスムーズに接続することで、児童生徒の環境改善につながった。また、R3年度より県のSSWrも配置されており、市と県の連携による相談支援体制が構築されてきている。</li> <li>◆切れ目のない支援とともに、専門的な知見やスキルを身に付けた人材を継続的に確保することが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆個々の多様な対応と継続した支援ができるよう、外部機関と密に連絡調整を行い、隙間をつくらぬ体制づくりに努める。</li> <li>◆継続的な雇用ができるよう、予算の確保に努める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆隙間をつくらぬ支援方法に課題はあるが、介入ケースの環境改善につながっているため。</li> </ul>	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で子育て中の親、高齢者、障害者などの孤立を防ぐ仕組みづくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 生活困窮者や引きこもりの人・制度の狭間にいる人などへの支援の充実を図ります。
- ▶ ニーズキャッチで得た情報を活用し、市民や関係団体の活動に対する支援の方法について検討します。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	<p>◆福祉総合相談窓口を設置し、複雑化、複合化する相談に対し、関係機関と連携できるよう相談支援包括化推進員を配置対応する。</p> <p>◆地域住民助け合い事業で自治会の見守り活動を支援</p>	<p>◆コロナ禍でも自治会の見守り活動や居場所づくりを支援し、地域で孤立を防ぐ仕組みづくりを推進</p> <p>◆ひきこもり・不登校支援の居場所や活動する場の推進</p> <p>◆LINE相談を開設し、ひきこもり・不登校やケアラーがアクセスしやすいように工夫した。</p>	◆地域で孤立を防ぐ仕組みづくりを推進	◆孤立予防、制度外の関わりの重要性を共有し、分野横断的な多機関協働が重要	B	◆地域で孤立を防ぐ仕組みづくりを推進した。	継続
黒磯支所地域福祉係	<p>◆福祉総合相談窓口を設置し、複雑化、複合化する相談に対し、関係機関と連携できるよう相談支援包括化推進員を配置対応する。</p> <p>◆地域住民助け合い事業で自治会の見守り活動を支援</p>	<p>◆生活困窮者を支援している民生委員に対して、相談会の情報を提供した。</p> <p>◆子どもの虐待やひきこもりについて市や学校、関係機関と情報共有し子ども食堂等地域の居場所につなげた。</p> <p>◆高齢者だけではなく、ヤングケアラーや医療的ケア児の問題を通して、支援のあり方について検討した。</p>	◆支援の必要な人などの情報を得て、関係機関と連携し支援を行った。	◆支援が必要な人などへの情報発信や相談窓口の周知の強化。	B	◆様々な機関との情報共有ができた。	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域の中で高齢者、障がい者などの孤立を防ぐ仕組みづくりの支援を検討する。</li> <li>◆ニーズキャッチで得た情報を活用し、市民や関係団体の活動に対する支援方法について検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆特に塩原温泉病院と支援が必要な人について共有し、地域支援会議で検討して支援につなげることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆孤立が加速する高齢者、障害者や困窮者などを見落とさない方策が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆関係機関との継続的な協働。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆関係機関との共有ができた。</li> </ul>	継続
生活支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆支援が必要な方のニーズキャッチをし、民生委員や関係機関と連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆9月末にコロナ特例貸付が終了したが、その後も自立できずコロナによる困窮関連する相談が多くあった。</li> <li>◆R4年度設置された、相談支援包括化推進員と情報を共有し課題解決向け活動した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆コロナ特例貸付が終了するまでは、貸付をすることで一時的に改善する場合もあったが、自立できず再び貸付相談に来る方も多かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆複合的な課題を抱えているため関係機関との連携が必要。</li> <li>◆貸付による支援が根本的な解決にはならないと考える。本来解決すべき問題に介入して行けるよう、職員のスキル向上、連携機関の開拓が必要である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆引き続き、支援体制について検討していく必要がある。</li> </ul>	継続
福祉サービス支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆生活困窮者や引きこもり支援の支援に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆法定サービスや制度では対応できない利用者に対して、関係機関と連携し家屋清掃等の支援を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆担当する利用者と信頼関係を構築し、制度では対応できない支援をすることができた。地域住民の理解と支援が課題。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆専門職が入ることにより近隣住民との関係が希薄化することがないようにする。平常時は地域で見守る体制をつくる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆誰もが地域住民として生活できるように地域での見守りを働きかけていく。</li> </ul>	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 子育て中の親、高齢者、障害者などの孤立を防ぐための仕組みづくりを検討します。

所管	R4実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自治会で支援が必要な人に対する見守り活動を行い、孤立防止に努めた。</li> <li>◆facebookを活用し、若い世代等への情報発信に努めた。</li> <li>◆公式Lineアカウントを活用し、「ケアラー相談」や「オレンジドアにしなす」「こども夢くらぶ」「あおぞらのいす」の情報発信や直接的な相談を受け、問題解決できるよう関係機関と連携した。</li> </ul>
黒磯支所	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域で困っている人からの相談を、地域包括支援センター、社会福祉協議会の相談窓口を紹介した。</li> <li>◆相談支援包括化推進員や相談窓口の情報提供を行った。</li> <li>◆社協で実施した相談会（相談+お米配布）の情報を提供した。</li> </ul>
塩原支所	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆社協の主催する塩原地域支援会議に塩原認定こども園も参加し、関係する人が孤立しないように、検討を重ねた。</li> </ul>
生活支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆日常生活自立支援事業と就労支援担当と連携して、引きこもりの方などの支援を展開することができました。</li> </ul>

令和4年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり

施策の方向性 3 福祉サービスの充実と権利擁護の推進

今後の取組 (3) **権利擁護などの推進体制の充実**

① 行政

- ▶ DV被害者、虐待被害者などへのサポート体制の充実を図ります。
- ▶ 成年後見制度の活用及び体制の充実を図ります。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (社会福祉課)	<p>◆DV被害者、虐待被害者などへのサポート体制を充実させる。</p> <p>◆成年後見制度の活用及び体制を充実させる。</p>	<p>◆障害者虐待防止法に基づく一時保護の居室の確保に関し、那須地区内の3施設と協定を締結し、緊急時の受入れ体制を整備している。</p> <p>◆成年後見制度利用支援事業として、市長申立てにかかる費用や、成年後見人報酬への助成、司法書士会による相談会を実施している。</p>	<p>◆居室確保の協定に基づき障害者虐待被害者の緊急一時保護が円滑に行うことができる。</p> <p>◆必要な方が成年後見制度を利用することができた。</p>	<p>◆成年後見制度の周知・啓発。</p> <p>◆成年後見制度における高齢福祉課との連携</p>	B	<p>◆虐待案件や、成年後見の市長申立て案件に対し、関係機関と連携して対応ができているため</p>	継続
保健福祉部 (高齢福祉課)	<p>◆DV被害者、虐待被害者などへのサポート体制を充実させる。</p> <p>◆成年後見制度の活用及び体制を充実させる。</p>	<p>◆地域包括支援センターと連携し、高齢者虐待や成年後見などの権利擁護支援を行っている。</p> <p>◆後見人報酬の助成を行い、後見人を支援している。</p> <p>◆成年後見制度利用促進のための中核機関整備、協議会の設置に向けた検討</p>	<p>◆地域包括支援センターと連携して、民生委員、介護・医療関係者とのネットワークを活用することにより、高齢者虐待の早期発見・対応、成年後見の利用支援を行い、高齢者の権利擁護を図ることができた。</p> <p>◆中核機関の整備、協議会の設置に向け、関係者や関係機関と協議を進めることができた。</p>	<p>◆高齢者の増加に伴い、虐待や後見人に関する相談が増えると予想されるため、関係機関とのネットワーク強化を図り、早期に発見・対応に努めていく。</p> <p>◆那須塩原市成年後見制度利用促進基本計画に基づき、制度を必要としている人が利用できる仕組みづくりを進める。</p>	B	<p>◆地域包括支援センター等と連携し、高齢者の権利擁護を支援することができたため。</p>	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
子ども未来部	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆男女間のあらゆる暴力の根絶を目指した様々な事業を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆第3次DV防止計画の策定した。</li> <li>◆関係課会議を開催し計画の進捗管理及び各担当課の状況確認を行った。</li> <li>◆イベントにおいてDV防止啓発パンフレットを配布した（300部）</li> <li>◆地域ケア会議に出席し、DVの啓発を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆計画策定に際し、有識者の意見を聴取し新規計画の策定が出来た。</li> <li>◆イベントでのDV防止啓発活動が出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆関係課を始めとする、職員の意識統一により、速やかなDV被害者の支援につなぐことが出来る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆コロナ以前ほどの啓発活動が出来ていないが、少しずつ実施が可能となっており、概ね計画が達成できた、次期計画が策定され継続して啓発及び支援を実施していくことが必要</li> </ul>	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 社協が行う高齢者・障害者・生活困窮者などに対する事業を展開する中で、NPO法人などの関係機関と連携を図りながら支援が必要な人の権利擁護に努めます。
- ▶ 認知症や知的障害があり、日常生活に不安を抱える人などに対し、「あすてらす(日常生活自立支援事業)」での支援の充実を図ります。
- ▶ 権利擁護に関する住民向けの講演会などへ参加できるように支援の方法について検討します。
- ▶ 行政と連携し、成年後見制度の活用及び体制づくりに努めます。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
生活支援係	◆日常生活自立支援事業の情報提供や関係機関と連携を図りながら支援が必要な人の権利擁護に努める。	◆民生委員への事業の情報提供、また、実際の支援で関係機関との連携を図りながら日常生活自立支援事業による権利擁護に努めた。	◆関係機関等への情報提供の他にも、あすてらすと関係機関での連携を図った支援を展開することができた。	◆地域で複雑化した課題を持つ方に対して、関係機関との連携を重質させた支援を展開する。	B	◆さらなる支援の継続と充実を図るため。	継続
塩原支所地域福祉係	◆権利擁護に関する住民向けの講演会、説明会へ参加できるように支援の方法について検討する。 ◆行政と連携し、成年後見制度の活用を努めます。	◆成年後見制度利用が必要と思われる事例において、制度の利用を説明し促した。併せて、権利擁護事業である「あすてらす」についても説明した。	◆成年後見制度の利用には「裁判所」が関係するため、敬遠されがちだった。	◆次年度に社協で始まる「法人後見」事業も併せて説明し、権利擁護制度の浸透を図る。	B	◆機会があれば権利擁護につながる制度の説明を行った。	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 日頃の生活の中で認知症、生活困窮、孤立などから生じる異変や虐待に気づいた際には、行政、民生委員・児童委員、社協、地域包括支援センターなどに連絡します。
- ▶ 権利擁護に関する講演会などに参加し、制度への理解を深めます。

所管	R4実績
生活支援係	◆支援の中で地域で孤立している方がいたため、行政、民生委員・児童委員、社協と連携し、支援を行った。
黒磯支所地域福祉係	◆相談のあった困窮者に対し、生活困窮自立支援事業やあすてらす、生活保護などの関係機関と情報共有しつないでいる。 ◆高齢者虐待が疑われるケースがあり、地域包括支援センターや社協と情報共有を行い、対応について話し合った。 ◆知的障害者疑似体験の研修会に参加し、障害者への理解を深めた。
塩原支所地域福祉係	◆認知症、生活困窮、孤立などから生じる異変等に気づいたときは、塩原温泉病院、行政、自治会長、民生委員・児童委員、包括、社協に相談し、その後、福祉サービス利用につなげる等、包括、行政（高齢福祉課）、社協等が対応した。令和4年4月からは、社協が、配食サービス事業に関連しての見守りも行っている。

令和4年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 1 誰もが利用しやすい地域福祉の仕組みづくり

施策の方向性 3 福祉サービスの充実と権利擁護の推進

今後の取組 (4) **地域包括ケアシステムの構築の推進**

① 行政

▶ 総市民・関係団体などと連携し、総合的な相談・支援体制の確立を目指す、地域包括ケアシステムの構築を推進します。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (社会福祉課)	◆市民・関係団体などと連携し、地域包括ケアシステム構築のため、地域ケア会議、協議体、多職種連携会議により、協議、検討を行う。	◆精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの協議の場の設置の足掛かりとして、相談支援部会の人材育成グループにおいて、事例を基に検討を行った。	◆人材育成グループにおいて事例検討を行ったが、医療機関との連携が不足している。	◆相談支援部会を精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの協議の場とし、医療機関と更に連携を図る。	C	◆地域移行が思うように進んでおらず、医療機関と更に連携を強化していく必要があるため	拡充
保健福祉部 (高齢福祉課)	◆市民、関係団体などと連携し、地域包括ケアシステムを推進するため、地域ケア会議、協議体、多職種連携会議により、協議、検討を行う。	◆地域共生社会の実現の考え方を踏まえ、地域包括ケアシステムの深化・推進を図るための各種会議を開催した。 <地域包括ケア推進会議> H30…年1回 R1 …年2回 R2 …年2回 R3 …年3回 R4 …年1回 <地域包括ケア推進担当者会議> H30…年6回 R1 …年6回 R2 …年1回 R3 …年2回 R4 …年3回 <地域ケア会議の開催> 各地域包括支援センターが黒磯（7圏域）・西那須野（2圏域）・塩原（1圏域）を対象に開催	◆市民や地域団体と連携して高齢分野や障害分野等の地域課題を把握し、解決に向けた検討を行うことができた。 ◆コロナのため、グループワークを主とした会議開催を制限することになった。（開催回数減）	◆各種会議を開催し、地域課題の把握や解決のための検討を行う。 ◆新しい生活様式に対応した意見交換、情報交換の場づくりを進める。	B	◆市民や地域団体と連携し、地域課題の把握や解決のための検討を行うことができた。	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
子ども未来部	<p>◆総合的な相談・支援体制の確立を目指す、地域包括ケアシステムの構築を推進する。</p>	<p>◆地域共生社会実現のシステム導入した。  ◆地域共生社会実現に向けて庁内会議を開催し、複合的な福祉課題について協議を行った。  ◆重層的支援会議を実施し、複合的な福祉課題について、外部機関を交えた検討を行った。  ◆関係機関の実務担当者から意見を聴取しながら、発達支援に関連する相談先を分かりやすく紹介するために「相談窓口ガイド」を作成し、窓口等に設置した。</p>	<p>◆総合支援窓口が設置され、重層的支援会議を開催し、外部機関を交えて支援についての検討を実施できた。  ◆相談窓口ガイドの設置を行った。</p>	<p>◆相談内容に関連する諸制度や相談ニーズに対応するために、相談員等の知識、スキルの向上に努める。</p>	A	<p>◆総合窓口が設置され、継続的な庁内関係課会議、重層的支援会議の実施が出来た。</p>	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 行政・市民・関係団体と連携し、地域包括ケアシステムの構築を推進します。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域包括ケア推進会議等に参加し地域の課題を検討</li> <li>◆第2層協議体の設置推進</li> <li>◆地域住民助け合い事業を推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域包括ケア推進会議等に参加</li> <li>◆西那須野地区において、大山・狩野・南の3地区において第2層協議体を設置した</li> <li>◆にしなすケアネットを中心とした地域共生社会構築に向けたプラットフォームづくり、官民協働による実践を推進できた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆定期的な開催と、他地区への波及が課題である</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆国が示した制度に捉われない話し合いの場づくり、実践が求められている</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆行政、多機関と連携し、地域包括ケアシステムの構築を推進した。</li> </ul>	継続
黒磯支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域包括ケア推進会議等に参加し地域の課題を検討</li> <li>◆第2層協議体の設置推進</li> <li>◆地域住民助け合い事業を推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆第2層協議体の設置推進にむけ精力的に支援した。</li> <li>◆地域包括ケア推進担当者会議に出席し、協議体や地域ケア会議にから上がった課題について検討した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域ごとの課題について話し合った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆定期的な話し合いの場を設けていく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域ごとの課題について検討できた。</li> </ul>	継続
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆行政、市民、関係団体と連携し、地域包括ケアシステムを推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域連携医療の中核機関である塩原温泉病院との協働体制を作ることが出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域包括ケアシステムと地域連携医療の端緒を構築することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆連携を進化させる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域包括ケアシステムのスタートを作ることができた。</li> </ul>	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 地域住民助け合い事業などを通じて、地域での問題の把握や解決方法の検討などに努めます。
- ▶ 地域ケア会議などの充実に努め、地域包括ケアシステムの構築を推進します。

所管	R4実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域ケア会議（会場やオンライン）に参加し、地域の課題について検討し、さらにその課題についての勉強会、検討会に参加した。</li> <li>◆狩野公民館で月1回、話し合いの場を設け、地域課題や情報交換をした。</li> <li>◆各公民館でラジオ体操を実施し、情報交換やニーズキャッチをした。</li> <li>◆子どもの居場所を運営し、子どもを中心とした多世代が集える場をつくった。</li> <li>◆ヤングケアラー協議会やひきこもり不登校支援の会に参加し、悩みを抱える人・家族への理解を深めた。</li> </ul>
黒磯支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地区の情報交換会や地域ケア会議にて、事例を通して「できること」について話し合いを行った。</li> <li>◆協議体、見守り活動に関する話し合いの場、地域ケア会議の開催、協力をした。</li> </ul>
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆コロナ禍による活動自粛のため、地域包括ケア会議も書面でのやり取りを主として行われた。主にオンラインを利用して行われた会議で挙げた、支援が必要と思われる事案については、塩原地域支援会議を中心に検討し、地域包括ケアシステム→重層的支援体制の構築に努めた。</li> </ul>

令和4年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり

施策の方向性 1 生活環境の充実

今後の取組 (1) 日常生活における移動手段の充実

① 行政

- ▶ ゆーバス、予約ワゴンバスなどの公共交通システムの現状を検証し、利便性の向上を図ります。
- ▶ 日常生活上の移動に関する支援体制の検討、充実を図ります。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
市民生活部	<p>◆地域公共交通網形成計画事業を実施する。</p> <p>◆地域バスの運行経路、ダイヤを随時検討する。</p> <p>◆第2次那須塩原市地域公共交通計画策定に向けた市民アンケート調査等を実施する。</p> <p>利用者数目標値： 202,000人 (第2次総合計画前期基本計画の推計値)</p>	<p>◆那須塩原市民を対象とした公共交通のアンケート調査を行い、その調査結果等も反映した第2次那須塩原市地域公共交通計画(R5~R9)を令和5年3月に策定した。</p> <p>【ゆーバス】</p> <p>◆大田原市との連携により、大田原市営バス金田方面循環線の一部を那須塩原市域内まで延伸し、那須脳神経外科病院でのゆーバス黒磯線との路線の接続を行い、黒磯駅から那須赤十字病院を經由して大田原市街地まで移動可能な新たな路線バスルートを整備した。</p> <p>◆令和3年度から運用を開始した大田原市営バスとゆーバスの共通1日乗車券について、令和4年度からゆータク全線を利用対象路線に追加した。</p>	<p>◆地域バス(ゆーバス・ゆータク)の利用者数について、新型コロナウイルス感染症の拡大により利用者数が大幅に減少した令和2年度と比較すると利用者数は回復傾向にあり、ゆータクにおいては令和元年度の利用者数を上回り過去最高の利用者数に達した。しかし、ゆーバスの利用者においては、令和元年度と比較して約81%までしか回復しておらず、地域バス全体でも約83%の回復までしか達していないため、収支率を改善し各路線の維持・確保を図るため、更なる利用促進が必要である。</p>	<p>◆令和4年度に策定した「第2次那須塩原市地域公共交通計画」の各種計画事業の推進を行い、利便性の向上や利用促進に関するPRイベント等の取組実施により利用者の増加を図ることと、適正運賃の検討や運行効率の向上に関する取組を実施し、運行収支率の改善を図る。</p>	B	<p>◆利便性の向上に関する各種取組を実施したが、利用者数の目標値が達成できなかったため。</p>	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
		<p>◆那須町との連携により、那須町民バスとゆーバス・ゆータクの共通1日乗車券を導入した。</p> <p>◆ゆーバス黒磯線において、地域からの要望により「唐杉南」停留所を新設し運用を開始した。</p> <p>【ゆータク】</p> <p>◆ゆータク3路線（宇津野線、下大貫線、接骨木線）で利用可能な新たな「地域のりば」として、「ヨークベニマル西那須野店」停留所の運用を開始した。</p> <p>ゆーバス利用者数  R1 : 159,006人  R2 : 110,991人  R3 : 116,351人  R4 : 128,819人</p> <p>ゆータク利用者数  R1 : 16,276人  R2 : 13,367人  R3 : 14,811人  R4 : 16,650人</p>					

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (社会福祉課)	◆日常生活上の移動に関する支援体制の検討、充実を図る。	◆総合支援法に基づく障害福祉サービスとして居宅介護（通院介助）、同行援護、行動援護を提供している。 ◆地域生活支援事業として移動支援を実施している。 ◆福祉タクシー券、車椅子タクシー券の交付している。 【福祉タクシー券の交付件数】 R2：1,859件 R3：1,813件 R4：1,823件	◆障害者の通院や買物などの日常生活における外出支援に寄与した。 ◆移動支援実施事業所が少ない。	◆公共交通機関その他の移動手段やサービス提供事業者との連携による、障害のある方の日常生活に必要な移動手段の確保 ◆移動支援の利用状況を把握し、利用者の偏りをなくし、適切なサービスを提供する。	B	◆日常生活上の移動に関する支援により、障害者の自立と社会参加を図るため事業の継続・拡充が必要であるため。	継続
保健福祉部 (高齢福祉課)	◆日常生活上の移動に関する支援体制の検討、充実を図る。	◆高齢者タクシー利用券の交付 H30…2,348件 (H31.1末現在) R1 …2,504件 (R2.1末現在) R2 …2,551件 (R3.1末現在) R3 …2,635件 (R4.1末現在) R4 …2,624件 (R5.1末現在)	◆高齢者の通院や買物などの日常生活における外出支援に寄与した。 ◆対象高齢者の増加による補助経費の増加。	◆公共交通機関、コンパクトシティの在り方と連動し、移動手段の確保について検討を進め、経費の縮減策を検討する。	B	◆対象高齢者が増加しているが、移動困難高齢者に対する支援は概ね行えているため。	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 市や地域住民と連携し、自治会やコミュニティ単位で公共交通の効果的な利用方法などを検討する場づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域の中で移動が困難な人の送迎や買い物、通院などの支援を行う住民主体の活動の支援の方法について検討します。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	◆まちづくりの視点を持ち、交通課題の解決を図る	◆市民や関係機関が集い、交通問題検討会を実施 市の福祉部局だけでなく公共交通を担当する生活課とも情報共有した ◆住民参加型の「井戸端サロン」で交通課題の現状について情報共有した。	◆コロナ禍でも対策をとりながら、公共交通と住民主体の交通の在り方について議論ができた	◆実践に移行する時にはまちづくり関連の機関との連携や視点が必要になるため、そことの協働が重要	B	◆市民と共に具体的な話し合いを継続実施した。	継続
黒磯支所地域福祉係	◆まちづくりの視点を持ち、交通課題の解決を図る	◆移動手段の問題について、地域に出向き問題を把握し、地域の担い手を発掘し関係事業所（らくサポ）へつないだ。 ◆有償送迎ボランティアと情報共有した。	◆移動手段の課題について、地域での担い手をらくサポセンターにつないだ。	◆移動手段について、支援方法の検討を継続していく。	B	◆担い手を発掘し関係事業所につながった。	継続
塩原支所地域福祉係	◆市や地域住民と連携し、自治会やコミュニティ単位で公共交通の効果的な利用方法などを検討する場づくりの支援方法を検討する。	◆地域福祉計画・地域福祉活動計画策定のための地域座談会において意見交換した。	◆他市の例は認識できたが、そこから発展的な方向性が見つからなかった。	◆方法の模索。	C	◆方向性を具体化できなかったため。	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 自治会やコミュニティ単位で公共交通の効果的な利用方法などについて検討します。
- ▶ 移動が困難な人の送迎、買い物や通院の支援を検討します。

所管	R4実績
地域支援係	<p>◆にしなすケアネットから派生した交通問題検討会に参加し、課題共有や情報共有を行い、具体的に住民主体の移送方法を構想している。具体的には社会福祉法人の車両を活用した移送事業を進めている。</p> <p>◆助け合いの活動の中で移動が困難な方の支援あるいは支援の方法について検討、実施している。</p>
黒磯支所地域福祉係	<p>◆移動が困難な人の現状把握をし、地域包括支援センターや地域住民と情報共有しながら、住民同士の助け合いや既存のサービスにつなげた。</p> <p>◆移動販売や移動支援について情報を集め、地域の高齢者へ紹介した。</p>
塩原支所地域福祉係	<p>◆通院や買い物支援を行えるような方法の検討を継続しているが、実効性あるものは見いだせていない。塩原地域においては、買い物の手段として、生協を利用する人も多い。</p>

## 令和4年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり

施策の方向性 1 生活環境の充実

今後の取組 (2) **安心・安全のための生活環境の充実**

## ① 行政

- ▶ 公共施設のバリアフリー化の推進を図ります。
- ▶ 安全のため、道路・交通施設の整備を推進します。
- ▶ 道路管理者、警察、学校、PTAなどが連携し、通学路の安全対策を推進します。
- ▶ 空き家、空き地の所有者に対して適切な管理を促します。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
企画部	◆公共施設のバリアフリー化の推進を図る。(新庁舎建設を推進する。)	◆実績なし	◆新庁舎建設基本計画の一部見直しを行ったため、新庁舎建設基本設計・実施設計は未実施。	◆新庁舎建設基本設計に早期に着手する。	D	未実施のため。	継続
総務部	◆施設の維持管理を実施	◆エレベーターの保守点検(エレベーターの運転状態、内装、照明、操作盤等の点検、外部への連絡装置の通話試験等)を3箇月に1回実施。	◆多目的トイレ、身障者用駐車区画、正面玄関スロープ、エレベーターを設置済み。安全性の確保のため定期的な点検、維持管理が必要。	◆定期的に点検を行い、不良個所の早期発見、対処を実施した。	A	◆日頃から庁舎の見回りや設備の点検を実施し、安全性の確保が図れた。	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
市民生活部	<p>◆那須塩原市通学路安全対策プログラムにおいて通学路の交通安全対策を行う。</p> <p>◆市民等から空き地の相談を受けた際に、空き地の所有者に対し相談者の希望を伝え、適切な管理を促す。</p>	<p>◆道路管理者、警察、学校と連携して、通学路の危険個所の対策を行った。</p> <p>◆安全対策件数（生活課分） R2：1件 R3：17件 R4：2件</p> <p>◆空き地対応件数（相談受付人数） R2・・・174 R3・・・141 R4・・・211</p>	<p>◆令和4年度那須塩原市通学路安全対策プログラムを遂行し、通学路の交通安全対策を実施できた。今後も継続して、関係機関と綿密な連携をとることが必要である。</p> <p>◆空き地の相談について相談者の要望を空き地の所有者に伝え、適切な管理を促した。</p> <p>◆民法・不動産登記法の改正案を踏まえた空き地に対する市の関わり方について、引き続き検討を行う。</p>	<p>◆那須塩原市通学路安全対策プログラムにおける関係機関の連携を強化し、児童が安全に登校できる環境を整備する。</p> <p>◆民法・不動産登記法の改正法が公布され、施行日が決まったので、相続や住所等変更時の登記が義務化される等内容について相談者や土地所有者に情報提供していく。</p>	A	◆計画どおり事業を遂行することができた。	継続
保健福祉部 (社会福祉課)	◆公共施設のバリアフリー化を推進する。	◆障害者からの意見や要望を随時聴取している。	◆障害者からの意見や要望について、施設管理担当課と情報共有を行い、公共施設のバリアフリー化を図ることとしている。	◆公共施設の新築に当たっては、設計段階で担当課と協議する機会や障害者から意見を聴取する機会を設けるとともに、バリアフリー化を図るための提言を行う。	B	◆ユニバーサルデザインの普及により、バリアフリー化が推進されているため。	継続
保健福祉部 (高齢福祉課)	◆公共施設のバリアフリー化を推進する。	◆高齢者施設のバリアフリー化について、継続して検討。	◆高齢者施設の不便箇所の有無については、概ね支障がないものと確認できた。	◆高齢者施設の不便な箇所のバリアフリー化改修を行い、利用しやすい施設とする。	B	◆現在は、不具合箇所等の改善要望がないため。	継続
子ども未来部							終了

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
産業観光部	<p>◆青木ふるさと物産センターの建替を実施する。(R1～R5) &lt;R4&gt; ▶施設建替のための実施設計 【参考】&lt;R5&gt; ▶工事</p>	<p>◆実施設計業務委託を発注。駐車場改修工事設計についてもバリアフリー化を考慮した。</p>	<p>◆公共施設としてバリアフリーを考慮した設計をする必要がある。</p>	<p>◆高齢者・障害者等の円滑な移動等に配慮した設計を行った。</p>	A	<p>◆法令順守はもちろん、国土交通省が示した設計標準を参考に計画どおり実施した。</p>	継続
建設部	<p>◆歩道の整備を実施することにより、地域における生活空間の安全確保を図る。 ◆児童の通学路を整備することにより、児童の安全を確保できる。 【実施路線(目標)】 14路線 ◆所有者等に空き家等の適正管理を促す。</p>	<p>◆通学路交通安全対策プログラム計上箇所 17箇所対策実施 ◆歩道整備(黒磯西岩崎線ほか) 【実施路線】(用地取得等含む) R2…14路線 R3…12路線 R4…11路線 ◆市民等からの空き家等の相談を空き家等の所有者に通知及び電話等で適正管理指導等の連絡をした。 【相談件数/年度】 R2:39件,R3:53件,R4:51件</p>	<p>◆通学路交通安全対策プログラム(道路管理者、警察、教育委員会、学校、PTA連携)による、通学路安全対策推進 ◆歩道の整備 ◆相談内容を空き家等所有者に伝え、適切な管理を促した。</p>	<p>◆毎年度の予算に合わせた整備推進 ◆通学路交通安全対策プログラム計上箇所 ◆歩道整備路線(道路改良路線も含む) ◆空き家等の所有者が適正な管理を継続する。</p>	B	<p>◆令和4年度予算分の事業が予定通り実施できたため。 ◆空き家等所有者に適正管理を促すことができたため。</p>	継続
西那須野支所	<p>◆バリアフリー化に向けた調査・検討、実施</p>	<p>◆点字ブロックの剥がれている箇所の修繕を行った。</p>	<p>◆庁舎前広場の展示ブロックで剥がれている箇所の修繕を行った。</p>	<p>◆施設の経年劣化による不具合については随時対応し、利用者に不便をかけないために段差等の障害物の確認を行い、是正すると共にニーズに合った施設のあり方の検討及び調査を行っていく。</p>	B	<p>◆庁舎周辺は概ねバリアフリー化されているが、今後も施設の経年劣化に伴い、是正を行っていく必要があるため。</p>	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
教育部 (教育総務課、 学校教育課、 生涯学習課、 スポーツ振興 課)	<p>◆施設改修工事に併せ施設のバリアフリー化</p> <p>◆施設のバリアフリー化の推進として、予算内で施設の使いやすさを工夫する。</p> <p>◆道路管理者、警察、学校、PTAなどと連携し、通学路の安全対策を推進する。</p>	<p>◆公共施設のバリアフリー化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・箒根学園管理教室棟新築工事における栃木県ひとにやさしいまちづくり条例への適合</li> <li>・箒根学園既存教室棟改修工事におけるバリアフリー化</li> </ul> <p>◆通学路の安全対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・危険箇所調査の実施(7月)</li> <li>・通学路安全推進会議の開催(11月)</li> <li>・対策箇所一覧表を市ホームページで公表(R5.3公表)</li> </ul>	<p>◆箒根学園管理教室棟新築工事において、出入口の幅や廊下の幅員など、栃木県ひとにやさしいまちづくり条例に全て適合させバリアフリー化を図った。</p> <p>◆箒根学園既存教室棟改修工事では、トイレの床モルタル打設工事及び地域開放多目的室へのスロープ設置工事により、床段差解消が図られた。</p> <p>◆施設数が多いため、計画的、継続的な施設のバリアフリー化が必要であり、多額の費用を要する。</p> <p>◆通学路交通安全対策プログラムに基づく取組により、関係機関が連携した安全対策の推進を図ることができた。</p>	<p>◆各施設でバリアフリー化の推進を図るのではなく、公共施設全体でのバリアフリー化整備計画策定の検討が必要である。</p> <p>◆バリアフリー化の推進には、ソフト面の対応も重要であり、職員や施設利用者の他者への配慮、思いやりなどの「気づき」を心がけていく必要がある。</p> <p>◆通学路安全対策の取組については、継続的に実施する必要がある。</p> <p>◆職員の気づきや利用者の意見を取り入れ、ハード・ソフト両面についてバリアフリー化を進められるよう、サービスの向上を図る必要がある。</p>	B	<p>◆施設の新築工事等に併せバリアフリー化が図られた。</p> <p>◆通学路安全対策については目標とする取組がおおむね実施できている。</p>	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 行政と連携を図りながら地域の中でのバリアフリー化を推進します。
- ▶ 地域住民の安心・安全に向けた活動を支援します。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	◆地域内の状況把握を当事者たちと一緒に行う	◆ボランティア団体や市民活動団体へボランティア保険の加入を勧めた ◆福祉協力店の情報をホームページに掲載し、そこにバリアフリーであるかどうかの情報も掲載した ◆カラフルBOX講演にて当事者会と連携し、知的障がい・発達障がい啓発を行った。参加団体から障がいに対する具体的な意見をいただき当事者たちと情報を共有した	◆知的障がい・発達障がいの啓発活動を市内外で実施した。	◆バリアフリー化を考える際には当事者や多様な機関との連携が重要	B	◆コロナ禍で積極的な交流や活動は出来なかったが、可能な限り実施した	継続
黒磯支所地域福祉係	◆地域内の状況把握を当事者たちと一緒に行う	◆くろいそケアネットにて買物マップを作成した。 ◆防犯パトロール隊とマップを作成するなど、情報共有し、安心安全な地域づくりに向け活動した。	◆地域住民とともに情報共有できた。	◆多くの住民と共に情報共有ができる場の支援。	B	◆情報共有ができた。	継続
塩原支所地域福祉係	◆行政と連携を図り、地域の中でバリアフリー化を推進する。 ◆地域住民の安心、安全に向けた活動を支援する。	◆コロナ禍における活動自粛のため、ほぼ実績がなかった。	◆住民活動の再開状況を見ながら検討する。	◆状況把握と住民との意見交換から始める。	C	◆実績不十分。	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 市の補助制度を活用した、自治公民館のバリアフリー化を検討します。
- ▶ 交通ルールの遵守やマナーの向上に努めます。
- ▶ 普段から近所同士で声をかけ合い、支援が必要な世帯への気配りを行います。
- ▶ 草刈りや除草活動を通じ、通学路の環境保全に努めます。

所管	R4実績
地域支援係	◆地域住民助け合い事業を進めている。 ◆スクールガードや子どもの見守り、通学路の危険箇所の確認などを行っている。
黒磯支所地域福祉係	◆パトロール隊として、小学生の登下校を見守っている。 ◆老人クラブの奉仕活動として、公共施設の除草作業を行なった。
塩原支所地域福祉係	◆自粛された市民活動が徐々に復活し、老人クラブによる清掃の奉仕活動も、通学路や公民館等の公共的場所において、環境整備として可能な限り実施された。

## 令和4年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり

施策の方向性 2 防災・防犯体制の充実

今後の取組 (1) 地域における防災体制の充実

## ① 行政

- ▶ 地域の防災リーダーの養成・育成の充実に努めます。
- ▶ 自主防災組織の結成や活動を支援します。
- ▶ 地域での防災のため情報の集め方、情報の共有と活用のためのルールづくりをします。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
総務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆防災士養成事業及び防災士資格取得者研修会の実施</li> <li>◆自主防災組織育成支援補助金の交付</li> <li>◆自主防災組織結成の支援</li> <li>◆地域における防災情報の集め方、情報の共有と活用のためのルールづくり</li> <li>◆地区防災計画の策定支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆防災士養成講座（12/3・4）により、42人が新規に防災士を取得した。</li> <li>◆自主防災組織の結成、事業運営、資機材等整備に対し補助金を交付した。</li> <li>◆昨年度から継続していた塩原地区での地区防災計画が2月に完成した。また、西那須野地区において地区防災計画策定に取り組み、3月に完成した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆養成事業による防災士資格取得者が539人となった（地域推薦364人）が、人材活用に地域差がある。</li> <li>◆塩原地区及び西那須野地区で地区防災計画の策定支援を行った。</li> <li>◆自主防災組織の結成率が目標に至っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域の防災リーダーとしての防災士の活躍の場づくりについて検討を行う。</li> <li>◆自主防災組織未結成自治会への個別支援を強化する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自主防災組織の活動や地区防災計画策定に対する支援を実施することができた。</li> </ul>	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (社会福祉課)	◆避難行動要支援者支援事業の周知と普及	◆自治会長、自治会役員、民生委員、関係機関に要支援者名簿を配布した。 《協定自治会数》 R元…173 R2…174 R3…176 R4…178 ◆地域ケア圏域会議において、福祉専門職や自治会役員、民生委員等に制度の説明を行った。(2回) ◆名簿掲載への同意の際に、災害時の他、地域による見守り等日頃の支援についても明記しており、見守り活動にも活用されている。	◆制度の認知が進み、徐々に協定自治会が増えているが、制度活用に対する理解がまだ不足しており、名簿の活用が十分ではない自治会がある。 ◆名簿配布時に名簿の活用事例を周知した。	◆未協定自治会に積極的に声掛けを行う必要がある。 ◆要支援者情報を活用した地域の見守り体制の構築支援を推進する。	B	◆制度の認知と活用は徐々に進んでいる。	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で地域住民が普段から近隣と交流を持ち、災害時には支援を必要としている人の手助けができるような体制づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域住民が行う自主防災組織や防災訓練などの活動に対する支援の方法について検討します。
- ▶ 地域の中での防災情報の共有や活用方法などのルールづくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 災害時における災害ボランティアセンターの設置・運営を行い、ボランティア活動を支援します。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	◆防災、避難訓練時だけでなく、日頃からの地域住民同士の関係性強化を勧める	◆地域住民助け合い事業と避難行動要支援について説明し、災害時の支援につながる旨の啓発を行った ◆住民参加型の災害ボランティアセンター運営サポーター研修会を開催し情報を共有した	◆コロナ禍で積極的な地域内の交流や防災の活動などが実施できなかった地区がほとんど。心配な方への訪問は絶やさなかった	◆コロナの影響で改めて日頃のつながりの重要性が理解された新しい生活様式の中での防災体制を構築していく時期	A	◆コロナ禍で集まることは難しい中、研修会を開催することで住民との関係性強化を図れた	継続
黒磯支所地域福祉係	◆防災、避難訓練時だけでなく、日頃からの地域住民同士の関係性強化を勧める	◆各自治会の防災訓練や地域住民助け合い事業説明の際には、災害時の情報と日頃の見守りや関係性づくりの必要性について説明した。 ◆協議体と地区自治会長会との合同防災訓練を実施し地区内組織と住民のつながりを強化した。	◆防災意識の向上とともに、日常的な関係性の必要性が再認識できた。	◆日常の見守り活動と、災害時の支援を一体的に取り組めるよう支援する。	B	◆地域の防災と日常の関係性の必要性について理解してもらえた。	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
塩原支所地域福祉係	<p>◆地域の中で地域住民が普段から近隣と交流を持ち、災害時には支援を必要としている人の手助けができるような体制づくりの支援方法について検討する。</p> <p>◆自主防災や防災訓練などの活動支援方法を検討する。</p>	◆コロナ禍のため、防災訓練等を行うことは基本的に自粛されたが、一部地域では再開することができた。	◆「畑下」地区では、社協の地域活動補助金を利用して、防災に関する活動を再開することができた。	◆他の地域にも活動を広める。	B	◆一部地域での活動再開。	継続
総務・経理係	◆BCP（事業継続計画）研修に担当者が参加し、本会独自にBCP研修会を実施。	◆災害ボランティアセンター運営サポーター研修会を実施した。	◆9月に災害ボラセン運営サポーター研修会を実施。災害時に必要な人材を養成することができた。	◆サポーターによる支援の輪を広げていく必要がある	B	◆さらに災害への意識を高める必要がある。	継続
ボランティアセンター	◆社協の福祉総合相談窓口が設置され、複雑化、複合化する相談に対し、ボラセンとしても他機関とより連携を強化し、地域課題の解決に取り組む。	◆災害ボランティアセンター運営サポーター研修会を開催し、災害時に災害ボラセンを社協と一緒に運営を行えるボランティアの育成や顔の見える関係作りを行った。	◆いつ起こるかかわからない災害等に対応するために社協と外部団体、ボランティアとともに連携し、研修や訓練を行い災害への意識を高めることができた。	◆災害に対する訓練や研修を単年度で終わるのではなく継続していくことが必要。	A	◆栃木県社協、他市町社協、行政、関係機関、ボランティアと災害に関する研修や顔の見える関係作りができた。	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 普段から近隣と交流を持ち、災害時には支援を必要としている人の手助けができるような体制づくりに努めます。
- ▶ 自主防災組織へ全戸参加できるように努めます。
- ▶ 定期的な防災訓練の実施に努めます。
- ▶ 防災のための情報の共有や活用方法などについてのルールづくりをします。

所管	R4実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域住民助け合い事業や避難行動要支援に取り組み、災害時の体制づくりを行っている。</li> <li>◆コロナ禍であったが、災害ボランティアセンター運営サポーター研修会を実施して具体的な災害に関する情報を共有した。</li> </ul>
黒磯支所	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆各自治会の防災訓練に参加し、防災に関する情報共有や普段からの見守り活動の必要性について話し合った。</li> <li>◆協議体と地区自治会長会との合同で防災訓練を実施し、住民は防災の意識を高めた。</li> <li>◆防災訓練を実施し、防災倉庫の備品についても確認した。</li> </ul>
塩原支所	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域における自主防災訓練等の活動は、自粛された地域が多かったが、例えば、畑下地区のように、自主防災訓練等を復活する動きも見られるようになってきた。今後の推移を見守りながら、協力を働きかける。</li> </ul>
総務・経理係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆9月に開催された災害ボランティアセンター運営サポーター研修会に参加しました。そこでは、災害ボラセンの運営について学ぶことができました。また、他のボランティアとのつながりもできました。</li> </ul>

令和4年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり

施策の方向性 2 防災・防犯体制の充実

今後の取組 (2) **地域で取り組む防犯活動の充実**

① 行政

- ▶ スクールガードの組織の充実を図り、子どもを犯罪から守ります。
- ▶ 自主防犯組織の結成や活動を支援します。
- ▶ 悪徳商法などの消費者トラブルに遭いやすい高齢者などを被害から守るため、関係機関や団体と連携し地域や家庭の見守り力の向上を推進します。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
市民生活部	<p>◆自主防犯組織の結成や活動を支援する。</p> <p>◆高齢者本人及び高齢者を見守る立場の人たちへの啓発を行う。</p> <p>◆特殊詐欺退避機器無償貸与事業を実施する。</p>	<p>◆自主防犯団体について、活動支援補助金の補助実績 R2・・・2団体、計129,900円 R3・・・3団体、計203,942円 R4・・・3団体、計231,371円</p> <p>◆【公民館高齢者学級での啓発回数（ちょい耳）】 R2・・・コロナの為実績なし R3・・・10回、243名 R4・・・12回、294名</p> <p>◆【HP及びみるメールでの情報発信数（消費生活関連）】 R2・・・67回（みるメール10回） R3・・・61回（みるメール21回） R4・・・60回（みるメール17回）</p> <p>◆【Twitterでの情報提供】 リツイート含む R2（12月～）・・・82回 R3・・・179回 R4・・・105回</p> <p>◆【特殊詐欺退避機器の貸与状況】 R2・・・70名（新規受付：7名） R3・・・70名（新規受付：19名） R4・・・74名（新規受付：35名）</p>	<p>◆自主防犯活動支援補助金の見直しを行い、令和5年度から補助対象経費の拡充や毎年申請を可能とした。</p> <p>◆高齢者を狙う特殊詐欺は、時代の流れに合わせて変化し続けており、手口が巧妙化しているため、タイムリーな情報提供を行わなければならない。</p>	<p>◆自主防犯団体から、他団体の取組活動を知りたいと意見があったため、情報交換できるよう今後検討する。</p> <p>◆高齢者に対する啓発だけでなく、高齢者を見守る人たちにも情報提供することにより、一丸となって高齢者を特殊詐欺被害から守ることができている。</p>	B	<p>◆講座・セミナーについて、対面型やリモートなど、相手方の状況に応じて開催することができた。</p> <p>◆Twitterやみるメールでの情報提供も適切なタイミングで実施することができた。</p> <p>◆特殊詐欺退避機器の貸出について令和4年度は新規受付が増加しており、高齢者に貸出制度の周知が図られてきている。</p>	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (高齢福祉課)	<p>◆悪徳商法などの消費者トラブルに遭いやすい高齢者などを被害から守るため、関係機関や団体と連携し地域や家庭の見守り力の向上を推進する。</p> <p>◆市内8か所に設置した地域包括支援センターによる総合相談を実施する。</p>	<p>◆地域包括支援センターでの総合相談の中で、高齢者への啓発及び見守りを実施した。</p>	<p>◆地域包括支援センターが高齢者からの相談を受ける中で、消費者トラブルの被害から守ることができた。</p>	<p>◆消費生活センター等の関係機関と連携を強化していく必要がある。</p> <p>◆日頃からの付き合いなどを通じた、地域の連帯に基づくさらなる防犯力の向上が求められる。</p> <p>◆成年後見制度の利用促進を図る。</p>	B	<p>◆民生委員、見守り活動実施自治会等の地域との連携し、被害防止体制が構築されてきているため。</p>	継続
教育部 (学校教育課)	<p>◆各学校で学校安全ボランティアを組織してもらう。</p>	<p>◆保護者、地域住民等と連携し、市内小学校を中心に、学校安全ボランティアを組織している。登下校等の際の見守りや安全指導に当たってくれている。</p>	<p>◆各校とも工夫して学校安全ボランティアを組織しているが、人材確保が大きな課題である。高齢化が進んでいるほか、学校によっては、保護者のみの登録もあり、保護者の負担が大きい。</p>	<p>◆保護者はもちろんのこと、高齢者や地域住民等、地域と連携した持続可能な組織が今後の課題である。よりよい連携のためにも、引き続き、保険加入等の行政の支援を行っていく。</p>	B	<p>◆学校安全ボランティアによる見守りは定着してきているが、さらに地域への啓発及び地域との連携が必要である。</p>	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 地域におけるスクールガードや防犯パトロールの仕組みづくりの支援の方法について検討します。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	◆地域と学校の連携強化を推進する	◆地域で子どもを見守る活動や高齢者宅への訪問活動を実施した自治会等へ地域福祉活動補助金を交付し、地域の見守り体制へのサポートを実施 ◆住民参加型の「井戸端サロン」で子どもに関する課題の現状について情報を共有した	◆コロナ禍で子どもへの見守りや高齢者への訪問活動やパトロール活動が積極的に行えなかった	◆子ども、高齢者など対象を分けずに見守り活動を地域全体で行う視点が必要	B	◆自治会やコミュニティの話し合いで地域全体で防犯について考えることができた	継続
黒磯支所地域福祉係	◆地域と学校の連携強化を推進する	◆スクールガードや防犯パトロールの活動について、状況把握、情報共有をした。 ◆子ども食堂への小中学校との関わり強化に向けて働きかけをした。	◆活動者の視点から地域の情報共有ができた。	◆地域と学校との連携を推進する。	B	◆活動者と学校との連携について把握できた。	継続
塩原支所地域福祉係	◆塩原小中学校や関谷小学校（箒根学園）と今後の防犯体制についての話し合い。	◆コロナ禍を考慮し、働きかけを自粛。	◆実施できていない。	◆小学部児童については、スクールバスによる登下校が行われているため、防犯体制について、主に中等部生徒について学校から防犯の現状について聞き取りを行う。	D	◆実績なし。	改善

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 近所同士で日頃から声かけや目配りをし、不審者の出入りに注意します。
- ▶ 地域ごとに防犯パトロールの仕組みづくりを検討します。
- ▶ スクールガードの組織の充実を図り、子どもを犯罪から守ります。
- ▶ 周囲に消費者トラブルの被害が疑われる人がいる場合には、消費生活センターなどの相談機関へつなぎ、被害の未然防止・早期発見・拡大防止を図ります。

所管	R4実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域住民助け合い事業において声かけや見守りを行い、防災・防犯活動につながっている。</li> <li>◆声かけや見守り、普段の会話の中から消費者トラブルの防止・早期発見につながっている。</li> <li>◆スクールガードや防犯パトロールを実施している。</li> </ul>
黒磯支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆各地区で、防犯パトロールやスクールガードの取り組みを行っている。</li> <li>◆各自治会で見守り活動と一緒に防犯の意識もってもらえるよう働きかけた。</li> <li>◆シルバークラブの会長研修会で消費者トラブルや高齢者を狙った詐欺について学び、被害防止の理解を深めた。</li> </ul>
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆スクールガード等の組織はないが、地域住民による声掛け、見守りが行われている。不安となる問題が発生したときは、塩原温泉病院、行政、自治会長、民生委員・児童委員、包括、社協に相談するという体制がルール化している。</li> </ul>

## 令和4年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり
- 施策の方向性 2 防災・防犯体制の充実
- 今後の取組 (3) **災害時における避難行動要支援者への支援体制の充実**
- ① 行政
- ▶ 自主防災組織や地域見守り組織と連携し、見守り体制を充実します。
  - ▶ 避難行動要支援者の個別計画の作成を推進します。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
総務部	◆自主防災組織の結成促進、活動支援	◆避難行動要支援者に対する支援において大きな役割を担う自主防災組織の結成、事業運営、資機材等整備を支援するために補助金を交付した。 ◆自主防災組織未結成の自治会を対象に、組織の結成や自主防災活動に関する個別説明や資料を送付した。	◆自主防災組織が結成されていない自治会がまだあり、結成されている組織においても、活動状況に地域差がある。	◆組織の結成や活動に対する費用補助を継続する。 ◆自主防災活動が地域差なく、活発に行われるよう支援する。	B	◆自主防災組織の活動に対する支援を実施することができた。	継続
保健福祉部 (社会福祉課)	◆避難行動要支援者の個別計画の作成を推進する ◆個別計画作成のモデル事業の実施について検討する	◆地域の状況により個別計画の作成を行えるよう選択制にし、個別計画の作成を推進した。 【R4個別計画作成自治会数】 114自治会/177自治会中 【個別計画作成率】 R元・・・55.3% R2・・・57.3% R3・・・55.6% R4・・・55.6%	◆昨年度よりも個別計画作成を再開する自治会が増加した。 ◆令和4年度に導入した「避難行動要支援者支援名簿システム」を活用するなどし、個別計画作成の優先順位を検討する必要がある。	◆できるだけ多くの自治会が個別計画を作成するよう支援する。 ◆個別計画を作成する要支援者の優先順位を検討し、関係機関との連携により個別計画を作成する体制を構築する。	B	◆コロナ禍で中断していた個別計画の作成が、推進できているため	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (高齢福祉課)	<p>◆避難行動要支援者の個別計画の作成を推進する。</p> <p>◆避難行動要支援者支援制度を推進し、自主防災組織や地域見守り組織と連携した見守り体制を充実させる。</p>	<p>◆公立公民館区に地域支え合い推進員を配置し、地域の困りごとなどの把握、解決に向けた話し合いを行いながら、見守り助け合う地域づくりに取り組んだ。</p> <p>◆見守り活動等を実施した自治会等の H30…73 R1 …84 R2 …111 R3 …122 R4 …137 (R5.2末現在)</p>	<p>◆見守り活動の実施団体が増加し、地域ニーズを把握できる体制、地域で見守り助け合うための担い手を拡充することができた。</p> <p>◆新型コロナウイルス感染症の影響により、地域での見守り活動や、地域支え合い推進員による組織立ち上げの支援等が十分行えなかった。</p>	<p>◆普段から、見守り等の助け合いによる地域とすることで、緊急時や災害時の互助による支援体制を構築する。</p> <p>◆地域支え合い推進員による見守り組織の立ち上げ支援を計画的に行っていく。</p>	B	<p>◆見守り活動を実施する自治会等の数が増えたことにより、地域の連携体制を拡充することができたため。(第8期高齢福祉計画値R4 120箇所)</p>	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 各地域の状況に応じた自主防災組織や見守りの体制づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域における災害時の情報収集、要支援者の把握、避難誘導などについて支援します。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	◆地域住民助け合い事業、避難行動要支援者支援制度、自主防災組織の活動の連携を多くの地域に波及させる	◆助け合い事業において地域にあった支え合いの方法を一緒に検討している ◆コロナ禍で日頃からのつながりが減った中でも、有事の際に対応できるよう住民参加型の災害ボランティアセンター運営サポーター研修会を開催し情報を共有した	◆コロナ禍で今までのように集うことが難しくなり、日頃からの関係性を深める機会が減ったが、電話等での声掛けや手紙による活動ができた	◆災害時や助け合いの取り組みは一体的に行っていく必要があるため、市や社協などの関係機関も一体的な支援が必要。	B	◆助け合い事業で周知してきた日頃の関係性がコロナ禍の動きにつながった	継続
黒磯支所地域福祉係	◆地域住民助け合い事業、避難行動要支援者支援制度、自主防災組織の活動の連携を多くの地域に波及させる	◆災害時の避難と日常の見守り活動が一体的に取り組めるように支援した。 ◆各自治会への連携の必要性を説明し、避難行動要支援者制度の締結に至った自治会があった。 ◆自治会役員や民生委員、見守り協力員と情報共有や話し合いをする場をつくった。	◆災害と見守りが一体的に取り組めるような支援ができた。	◆自主防災組織があり、見守り活動が実施されていない地区への支援を行う。	B	◆災害と見守りが一体的に考えられる支援ができた。	継続
塩原支所地域福祉係	◆各地域の状況に応じた自主防災組織や見守りの体制づくりの支援方法について検討する。 ◆地域における災害時の情報収集、要支援者の把握、避難誘導などについて検討する。	◆コロナ禍による会合自粛のため、旧来の見守りを維持した。特に、避難行動要支援者名簿を基に民生委員児童委員との連携を図った。	◆行政の名簿を基に見守り体制を共有した。	◆コロナ禍のような非常時でも避難行動要支援者の支援体制を整備・維持する方法を検討する。	B	◆関係機関との連携。	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
総務・経理係	◆市総合防災訓練に参加する。	◆災害ボランティアセンター運営サポーター研修会を実施した。	◆9月に災害ボラセン運営サポーター研修会を実施。災害時に必要な人材を養成することができた。	◆サポーターによる支援の輪を広げていく必要がある。	B	◆さらに災害への意識を高める必要がある。	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 各地域の状況に応じた自主防災組織や見守り体制の充実に努めます。
- ▶ 災害時の情報収集、要支援者の把握、避難誘導などについて検討します。

所管	R4実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域の状況や特徴を踏まえて地域ごとに自主防災組織・見守り体制の充実に努めている。</li> <li>◆助け合い事業・避難行動要支援者からの情報を集約し、支援体制の充実に努めている。</li> <li>◆避難行動要支援者支援制度運用に関して、自治会と民生委員児童委員が連携して個別計画作成や日頃の見守りなどを行った。</li> <li>◆コロナ禍であったが、災害ボランティアセンター運営サポーター研修会を実施して市民の具体的な災害に関する情報を共有した。</li> </ul>
黒磯支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆各自治会へ日頃心配な人と同じく避難行動要支援者制度の締結をすすめ、要支援者の情報共有と日頃から気に掛け合う関係性づくりをすすめた。</li> <li>◆車椅子を用いた防災訓練を実施し、高齢者や障害者の避難誘導の方法について検討した。</li> </ul>
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自主防災活動は行われなかったが、近所付き合いの中で声掛けによる旧来の見守りや色々な情報共有が行われている。また、那須塩原市の避難行動要支援者名簿を共有し、災害時に支援が必要な人の把握に努めている。</li> </ul>
総務・経理係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆9月に開催された災害ボランティアセンター運営サポーター研修会に参加しました。そこでは、災害ボラセンの運営について学ぶことができました。また、他のボランティアとのつながりもできました。</li> </ul>

令和4年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり  
 施策の方向性 3 地域での居場所づくり、活躍の場づくり  
 今後の取組 (1) **地域での居場所づくり**

① 行政

- ▶ 子どもの遊び場となる公園などの適切な管理、整備を図ります。
- ▶ 放課後児童クラブ、子育てサロン、生きがいサロンの充実・活性化を図ります。
- ▶ 子どもや高齢者などの地域での居場所づくりを行っている任意団体への支援策を検討します。
- ▶ 福祉活動の場としての空き家の活用を検討します。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (高齢福祉課)	(居場所づくり) ◆生きがいサロン推進事業の実施 ◆元気アップデイサービス事業の実施 ◆シニアセンターを拠点とした居場所づくり ◆いきいき百歳体操(空き家活用) ◆福祉活動の場としての空き家の活用を検討する。	(居場所づくり) ◆生きがいサロン運営支援 R1・・・61箇所 R2・・・60箇所 R3・・・61箇所 R4・・・61箇所 (R5.2末現在) ◆元気アップデイサービス R1・・・25コース R2・・・24コース R3・・・22コース R4・・・22コース (R5.2末現在) ◆いきいき百歳体操 R1・・・43箇所 R2・・・44箇所 R3・・・47箇所 R4・・・46箇所 (R5.2末現在) ◆障害福祉サービス提供事業所として、空き家や空き店舗、小学校跡地等が活用されている。	(居場所づくり) ◆高齢者の居場所づくりの支援を行うことができた。 ◆生きがいサロン等の実施団体や参加者の増加を図る。 ◆障害福祉サービス事業所の指定は県が行っているため、事前に空き家等を活用するかどうかは把握できていない。	(居場所づくり) ◆生きがいサロン等の内容をPRし、実施団体や参加者の増加を目指す。 ◆事業所としては、事業実施に当たり、障害及び障害者に対する地域の理解を図るとともに、地域に密着し、地域交流の機会を確保することが必要。また、地域としても障害及び障害者に対する理解を深めることが必要	B	(居場所づくり) ◆高齢者の閉じこもり防止、孤立防止及び介護予防に一定の効果があつた。 (空き家活用) ◆空き家活用の検討継続。 ◆空き家等の情報提供体制は整備されていないものの、福祉活動の場として実際に活用されているため。	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
建設部	◆社会資本総合整備交付金事業における都市公園施設を長寿命化させるための更新工事計画を実施する。	◆鳥野目河川公園の木道、烏ヶ森公園の公園施設を更新した。	◆計画どおり更新工事を実施した。	◆老朽化した施設を更新し、安心安全な都市公園を維持する。	A	計画どおり更新工事を実施できたため。	継続
子ども未来部	◆子育てサロンの充実を図る。 ◆子どもの居場所づくりとして、要支援児童放課後応援事業をNPO法人に委託、支援する。 ◆放課後児童クラブの充実・活性化を図る。	◆子育てコミュニティ広場の運営 ◆公設児童クラブ（26クラブ）、民設児童クラブ（23クラブ）、合計49クラブ（3月末現在） ・児童クラブ数 R2 44クラブ R3 48クラブ R4 49クラブ ◆子育てサロン、つどいの広場の実施 ◆要支援児童放課後応援事業（2か所）の実施	◆コロナ禍においても子育てサロンで遊び場の提供や子育て相談等を行うことで、子育て家庭の孤立化を防ぎ、家庭における子育てへの支援につながった。 ◆要支援児童放課後応援事業を実施することで、学校休校時においても、要支援児童の見守りができた。	◆研修会に参加し、継続的なスキルアップを図る。 ◆家庭の状況に応じた支援の検討。	B	◆放課後児童クラブの着実な運営により、保護者の仕事と子育ての両立支援を図ることができた。 ◆子育て家庭の孤立化を防ぎ、家庭における子育てへの支援につながった。 ◆学校休校時においても、要支援児童の見守りができ、虐待を未然に防ぐことができた	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中での子どもや高齢者の居場所づくりを支援します。
- ▶ 地域の中で空き家を福祉活動の場として活用できるよう支援の方法について検討します。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆居場所の継続、発展を支援していく</li> <li>◆福祉部局だけでなく、空き家対策の部局とも連携を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆NPOや市民団体が実施する子どもの居場所の運営支援や食糧支援や運営サポートを行った</li> <li>◆地域の居場所へ地域支援員や職員のニーズキャッチにより子どもの居場所の運営支援を行った</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆コロナ禍をきっかけに食料支援などを通して市内の子どもの居場所とのつながりやネットワークが強固になった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆全世代において居場所づくりは重要であるため、地域内の連携だけでなく、市・社協のスムーズな連携が必要</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆コロナ禍により活動に支障があったが、できることを考えながら支援を行った</li> </ul>	継続
黒磯支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆居場所の継続、発展を支援していく</li> <li>◆福祉部局だけでなく、空き家対策の部局とも連携を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆子ども食堂開設の支援をした。</li> <li>◆空き家対策の部局と地域の現状、住民の思いについて情報共有した。</li> <li>◆地域の空き店舗を居場所にするための検討会を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆新たな居場所づくりのため、地域住民と共に動いた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆必要な人、必要な場所へ居場所の検討していく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆新たな居場所をつくることのできた。</li> </ul>	継続
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域の中での子どもや高齢者の居場所づくりを支援する。</li> <li>◆地域の中で空き家を福祉活動の場として活用できる支援方法について検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆高齢者の居場所と言えるサロン等の集まりが再開された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆サロン等の居場所が再開され、高齢者の状況が確認できてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆活動再開に至っていない高齢者たちの状況把握。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆状況が把握できるようになってきたため。</li> </ul>	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 子育てについて気軽に話し合える場づくりを検討し、できることから行います。
- ▶ 放課後や休日など一人での子どもなどが集まることができる場所づくりを検討し、できることから行います。
- ▶ 子育てサロンなどの開設に向けて検討します。
- ▶ 高齢者が集まることができる場所づくりを検討し、できることから行います。
- ▶ 空き家を福祉活動の場として活用できるよう検討します。

所管	R4実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自治会独自で子育てサロンを実施している。</li> <li>◆生きがいサロンやいきいき百歳体操などを実施している。</li> <li>◆趣味やサークル活動を自治公民館などで行っている。</li> <li>◆公民館や福祉施設の空きスペースにてケアラズカフェや居場所づくりを実施している。</li> <li>◆子ども食堂を実施し、多世代が集える居場所を実施している。</li> <li>◆コロナ禍で緊急事態宣言等による自粛期間があり、集うことが困難な時期が多かった。心配な方・世帯への訪問や子育て世帯へのお弁当配布などを行った。</li> <li>◆公立公民館で廃止になった図書スペースを大山公民館で新たにフリースペースとして開放している。</li> </ul>
黒磯支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆子ども食堂にて実態を把握し支援を行った。</li> <li>◆高齢者の居場所継続の支援や新たな居場所づくりについての話し合いを行った。</li> <li>◆子どもと地域住民のつながりづくり、子育て中の親の負担軽減、地域住民の福祉活動への参加推進を目的として、住民主体の子ども食堂を設立した。</li> <li>◆空き店舗を活用した多世代型の居場所につくりの検討をした。</li> </ul>
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆生きがいサロンや百歳体操等の集まりが復活し、特に高齢者の居場所が復活してきている。</li> </ul>

## 令和4年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり  
 施策の方向性 3 地域での居場所づくり、活躍の場づくり  
 今後の取組 (2) **地域での活躍の場づくり**

## ① 行政

- ▶ ボランティア活動などを通じて、地域における子どもの活動の場を増やします。
- ▶ スクールガードや見守り活動など、地域における高齢者の活躍の場を増やします。
- ▶ 障害者の働ける場の確保に努めます。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
総務部	◆職員採用における障害者枠の設置	◆採用者0名 (R5年4月1日付け)	◆令和4年6月1日現在、障害者雇用率2.53%となり、法定雇用率2.6%をやや下回った。	◆毎年計画的な採用に努め、法定雇用率を達成する必要がある。	B	◆法廷雇用率をやや下回ったが、取組を継続していくことで令和5年6月時点では達成できる見込み。	継続
保健福祉部 (社会福祉課)	(障害者の働ける場) ◆障害者の働ける場を確保する。	◆地域自立支援協議会の専門部会である事業所部会(就労グループ)において就労アセスメントに係る研修会を実施し、就労系サービス事業所の質の向上を図った。	(障害者の働ける場) ◆就労系サービスの充実等により、一般就労・福祉的就労の場は増えているが、継続して就労できない方も多く、また、企業と障害者を適切にマッチングする仕組みが確立されていない。	(障害者の働ける場) ◆アセスメントを行い、本人の特性や強みを生かし、就労先の選択肢を広げるとともに、障害者本人の意思により選択できる体制の構築が求められる。また、企業とのマッチングの仕組みの構築が求められる。	B	(障害者の働ける場) ◆課題はあるものの、障害者の就労機会は増加しているため	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (高齢福祉課)	<p>(高齢者の活動の場)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆老人クラブの活動支援</li> <li>◆シルバー人材センターの活動支援</li> <li>◆生涯学習、スポーツ、レクリエーション活動の場の提供</li> <li>◆介護支援ボランティアポイント事業の推進</li> <li>◆地域づくり型介護予防サポーター養成事業</li> <li>◆シルバー大学校同窓会会員との連携</li> <li>◆生涯現役応援体制の構築</li> </ul>	<p>(高齢者の活動の場)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆老人クラブ運営支援 H30・・・55箇所 R1・・・53箇所 R2・・・51箇所 R3・・・47箇所 R4・・・44箇所</li> <li>◆老人クラブ連合会スポーツ大会運営支援</li> <li>◆シルバー人材センター活動支援</li> <li>◆シルバー作品文化祭開催 (※産業文化祭が開催されず、それに伴い未開催)</li> <li>◆介護支援ボランティア活動登録者 H30・・・145人 (H31.3現在) R1・・・148人 (R2.3現在) R2・・・135人 (R3.3現在) R3・・・133人 (R4.3現在) R4・・・122人 (R5.3現在)</li> </ul>	<p>(高齢者の活動の場)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆高齢者の豊富な経験や知識、技能を生かした地域での活躍の場づくりに一定の効果があった。</li> <li>◆老人クラブについては、箇所数及び会員数とも近年減少が続いている。</li> </ul>	<p>(高齢者の活動の場)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆老人クラブの魅力のPR等により、箇所数及び会員数の減少を防止する。</li> <li>◆広報等PRにより、介護支援ボランティア活動登録者の増加を図る。 ※コロナ禍により活動が行えておらず、新たな活動手法等の検討を進める。</li> </ul>	B	<p>(高齢者の活動の場)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆各種事業の実施により地域での活躍の場づくりに一定の効果があった。</li> </ul>	継続
子ども未来部	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ボランティア活動などを通じて、地域における子どもの活動の場を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ボランティア活動の場として、市内公立保育園でボランティアを受け入れ予定だったが、コロナ禍により実施を見送った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆コロナ禍により、参加者や園児等の安全確保が困難であったため、実施を見送った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆感染対策を行いながら、安心安全に受け入れできる態勢の検討が必要。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆公立保育園ではボランティアを受け入れる態勢を整えていたが、コロナ禍によりボランティアの受け入れができなかった。</li> </ul>	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
教育部 (学校教育課)	◆各学校で学校安全ボランティアを組織してもらっており、祖父母の協力も得る。学校から自治会にも周知を行い、協力者を募る。	◆各学校で全保護者及び自治会に学校安全ボランティアの希望を募り組織を編成した。	◆学校安全ボランティアの人材確保に努めながら、学校及び児童生徒の安全を推進した。今後、本市の推進事業でもある地域学校協働本部事業との連携が必要である。	◆組織編成に当たって自治会や敬老会に協力を依頼し、ながら見守りなど地域で子どもの育成及び安全確保につなげていく。	B	◆学校安全ボランティアによる見守りは少しずつ定着してきたが、さらに地域への啓発や関係部署との連携を図っていく必要がある。	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 高齢者が地域の中においてボランティア活動などで活躍できる場づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域の中で高齢者の知恵や力を出すことのできる機会づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 子どもや若者が地域の中で活躍できる場づくりの支援の方法について検討します。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	◆地域ごとに既存の活動、必要されている活動を把握し、スムーズにつないだり、実践にむけた取組ができるように意識する	◆ボランティア保険を提案し、安心した活動ができるよう支援している ◆助け合いにおいて、地域の高齢者同士の見守り等がなされている ◆子どもの支援をしたいと思っている市民に子どもの居場所に関する情報(社協だより)を配布して食材、物品等の寄附や活動協力者等の発掘を支援した	◆市民からの活動したい内容に合わせて地域の社会資源につないだり、想いを実現できるよう支援した	◆想いを持っている市民は多いので、実行に移せるようにコーディネートをしていきたい	B	◆住民の活躍の場づくりを意識した支援が行えている	継続
黒磯支所地域福祉係	◆地域ごとに既存の活動、必要されている活動を把握し、スムーズにつないだり、実践にむけた取組ができるように意識する	◆子ども食堂に中学生ボランティアの協力や地域の高齢者、認知症の方が関わる機会をつくった。 ◆地域の事業について把握し、高齢者が積極的に活動に取り組めるよう支援した。	◆若者が地域の中で活躍できるよう支援を行った。	◆地域住民が活躍できる場づくりの支援を行う。	B	◆若者が地域の中で活躍できるよう支援を行った。	継続
塩原支所地域福祉係	◆地域の中で高齢者の知恵や力を出すことのできる機会づくりの支援方法について検討する。 ◆子どもや若者が地域の中で活躍できる場づくりの支援方法について検討する。	◆高齢者の活動として、生きいきクラブ(老人クラブ)の人たちによる清掃活動が再開した。	◆高齢者の活動が一部再開できた。	◆コロナ禍のような非常事態でも行うことができる住民活動の在り方を検討する。ただ、高齢者は多くが会合形式での活動を希望するので、その方法も模索する。	B	◆活動の一部再開とその把握。	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
ボランティアセンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆社協の福祉総合相談窓口が設置され、複雑化、複合化する相談に対し、ボラセンとしても他機関とより連携を強化し、地域課題の解決に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆高校生グループとんぼの会の活動への協力。</li> <li>◆ボランティアへのボランティア活動の情報提供。</li> <li>◆シルバー大学北校卒業生へのボランティア活動の説明会実施や交流会への参加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆活動をとおしてボランティアの地域共生社会の理解促進を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆全ての人々が地域共生社会を理解し、活躍できる場作りや支援を行っていくことが必要。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆コロナ禍の影響も少なくなり、活動支援が少しずつ動き始められた。</li> </ul>	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 高齢者が地域の中で活躍できる場づくりについて検討します。
- ▶ 高齢者の知恵や力を出すことのできる機会づくりについて検討します。
- ▶ 子どもや若者が地域の中で活躍できる場づくりについて検討します。

所管	R4実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆生きがいサロンや公民館活動において高齢者が主体となって活動している。</li> <li>◆老人クラブや高齢者同士の互助グループの活動にを運営・参加している。</li> <li>◆コロナの影響で集いの場や地域の行事が中止になり、活動の場が非常に少なくなっているが、徐々に事業の復活をする自治体も増えている。</li> <li>◆子どもの居場所の運営に関わりたいという協力者が高齢者だけでなく若い方々の希望がある。</li> </ul>
黒磯支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域で困っている人からの相談を、地域包括支援センター、社会福祉協議会の相談窓口を紹介した。</li> <li>◆相談支援包括化推進員や相談窓口の情報提供を行った。</li> <li>◆社協で実施した相談会（相談+お米配布）の情報を提供した。</li> </ul>
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自粛となった地域におけるサロンや百歳体操等の活動が復活してきた。ただ、高齢化が進み多くの活動はできないとの声が多くなってきているため、高齢者が活躍できる場所のあり方を再検討する必要がある。</li> </ul>

## 令和4年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり

施策の方向性 4 地域における見守り体制の充実

今後の取組 (1) **子どもの見守り活動の充実**

## ① 行政

- ▶ スクールガードなどの見守り活動の充実を図ります。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
教育部	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆スクールガード（学校安全ボランティア）であることを周知するために、ベストを着用して活動に当たれるようにする。</li> <li>◆スクールガード（学校安全ボランティア）用のベストの必要枚数を把握し、充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆各学校からの要望に応じて、ベストを配布した。</li> <li>◆在庫数を一覧化し、スムーズに配布できるようにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆各学校の要望に応じて、スクールガード用のベストを補填することができた。</li> <li>◆現在配布しているベストの在庫が残りわずかになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆R5年度にてベスト購入を予定している。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ベストの着用によりスクールガードの認知度が上がり、効果的な見守り活動が行われている。</li> </ul>	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で子どもに対する見守り活動の体制づくりの支援の方法について検討します。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	◆地域学校協働本部事業との連携を図る	◆子どもの居場所を実施する中で子どもの状況把握を行い、学校とも連携がとれている。地域の子どもの顔の見える関係の構築等に努めることで民生委員と地域学校協働本部メンバー、学校との連携ができた。	◆地域内の見守り活動とスクールガード等の子どもの見守りの連携が必要	◆子どもが高齢者への声掛けや見守り等ができるような支援の仕方や情報提供をしていく	B	◆登下校時だけでなく、居場所を活用した見守り・関係性づくりができた	継続
黒磯支所地域福祉係	◆地域学校協働本部事業との連携を図る	◆地域での見守り活動について状況を把握した。 ◆スクールガードと見守り活動の情報共有の場を設けて、連携体制を強化した。	◆地域内のスクールガードと情報共有した。	◆地域内の子どもと大人の関係性づくり。	B	◆地域での活動について情報共有した。	継続
塩原支所地域福祉係	◆塩原小中学校や関谷小学校（帯根学園）と今後の見守り体制についての話し合い。	◆見守り体制について、積極的には実施できず、スクールガードの組織も認められないが、地域住民による声掛け、見守りが行われている。住民もさることながら、子どもたちからの挨拶が絶えない。	◆現状としては、地域での見守りが維持されている。	◆義務教育校との連携。	B	◆見守りの現状あり。	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 地域の中でスクールガードなどを行います。
- ▶ 子どもが地域で安心して遊ぶことができるよう見守りをします。
- ▶ 積極的に子どもたちとあいさつを交わします。

所管	R4実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆コミュニティ・自治会においてスクールガード、子どもの見守り活動を実施している。</li> <li>◆コロナ禍であったが、行事が徐々に実施され地域内で交流を図る自治会が増えてきた。</li> </ul>
黒磯支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆子ども食堂で公民館の協力を得ながら子どもたちの遊ぶ場所の確保と地域住民の見守り（付き添い）の環境を整えた。</li> <li>◆スクールガードの活動に取り組み、子どもたちの登下校を見守っている。</li> </ul>
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆スクールガードの組織はないが、地域住民による声掛け、見守りが行われている。住民もさることながら、子どもたちからの挨拶が絶えない。</li> </ul>

## 令和4年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

- 基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり  
 施策の方向性 4 地域における見守り体制の充実  
 今後の取組 (2) **支援が必要な人への住民の見守り活動の充実**  
 ① **行政**  
 ▶ 総全地域での住民主体の見守り活動の実施を目指します。  
 ▶ みるメールなどのICTツールを活用した見守りシステムの構築を検討します。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (社会福祉課)	◆避難行動要支援者支援事業の未協定自治会の解消 ◆地域の見守りネットワークの構築に向けた検討	◆未協定自治会に対して協定締結の勧奨通知を行い、事業の説明を行った。 【協定済自治会数】 176自治会→178自治会	◆通知を行うことで、2つの自治会と協定を締結することができた。また、協定には至らなかったが、複数の自治会と接触することができ、説明を行うことができた。 ◆見守り組織や自主防災組織との整合性をとる必要がある	◆未協定自治会の解消 ◆要支援者名簿を活用した地域の見守り活動のネットワークの構築	B	◆コロナ禍であったが、事業の趣旨を理解いただき、協定締結に向けた取組を推進することができた	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (高齢福祉課)	<p>◆避難行動要支援者支援制度を推進し、全地域での住民主体の見守り活動の実施を目指す。</p> <p>◆ICTを活用した見守り事業の運用</p>	<p>◆公立公民館区に地域支え合い推進員を配置し、地域の困りごとなどの把握、解決に向けた話し合いを行いながら、見守り助け合う地域づくりに取り組んだ。</p> <p>◆見守り活動等を実施した自治会数 H30…73 R1 …84 R2 …111 R3 …122 R4 …137 (R5.2末現在)</p> <p>◆ICTを活用した検索アプリによる見守り事業に取り組んだ。 ※民間企業が実施する検索アプリを利用する際、経費の一部を利用者に助成(みまもりあいステッカー支援事業)</p>	<p>◆見守り活動を実施する自治会等の増加、ICTを活用した検索アプリによる見守り事業の活用により、地域で見守り合う体制を拡充することができた。</p> <p>◆新型コロナウイルス感染症の影響により、地域での見守り活動や、地域支え合い推進員による組織立ち上げの支援等が十分行えなかった。</p>	<p>◆地域における見守り体制を充実させるため、見守り活動を実施する自治会数や見守り事業への参加者を増やしていく。</p> <p>◆地域支え合い推進員による見守り組織の立ち上げ支援を計画的に行っていく。</p>	B	<p>◆見守り活動を実施する自治会等の数が増えたことにより、地域の連携体制を拡充することができたため。(第8期高齢福祉計画値R4 120箇所)</p>	継続
子ども未来部	<p>◆住民主体の見守り活動の実施を目指す。</p>	<p>◆民生委員児童委員、主任児童委員に向け情報共有、気になる子育て家庭の見守りを依頼。</p> <p>◆民生委員児童委員主任児童委員の一斉改選に合わせて、見守り体制についてあらためて確認を行った。</p>	<p>◆地区定例会、専門部会等を通じ見守り活動への協力依頼と再確認を行った。</p> <p>◆高齢者の見守りは日常行われているが、子ども、子育て世帯の見守りについては委員からもどう行えばよいかわからないとの声がある。</p>	<p>◆子どもや子育て世帯への見守りについて検討していく。</p>	B	<p>◆子どもの見守りについては今後も継続してより良い方法を検討していく必要がある。</p>	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で支援が必要な人に対する見守り活動の体制づくりを支援します。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	◆引き続き、見守り活動実施自治会を増やす。また生活支援の実施も目指す	◆地域支え合い推進員の配置 H29…10公民館 H30…14公民館 R1 …15公民館 R2…14公民館 R3 …15公民館 ◆見守り活動等を実施した自治会数 H30…73 R1 …84 R2…111 R3…122 R4…137	◆コロナ禍だからこそ、見守り活動からの生活支援までの取り組みができるような働きかけが重要であり、啓発活動をしてきたが、思うように地域での説明等が行えなかった	◆個別ケースから自治会へ必要性を投げかけていく視点を持つ。多様な場面で地域の人と関わり、実態を把握していく	B	◆見守り活動実施自治会数は着実に増えている	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
黒磯支所地域 福祉係	◆引き続き、見守り活動実施自治会を増やす。また生活支援の実施も目指す	◆見守り報告会に参加し情報共有や支援について協議した。 ◆見守りと支援が必要な人の把握、地域住民との関係づくりのために配食サービス実施に向けて検討中。 ◆地域包括支援センターと連携して、地域の特に心配な方をトリアージし、本人と家族、住民、関係機関の連携強化のために話し合いの場をもった。 ◆見守り活動の体制づくりについて働きかけを行い、その地域に合った方法を関係者と協議した。	◆地域の心配な方に対する情報を共有し支援につなげた。	◆定期的な話し合いの場や日常的な相談が受けられる体制づくり。	B	◆情報共有後、関係機関と連携できた。	継続
塩原支所地域 福祉係	◆地域の中で支援が必要な人に対する見守り活動の体制づくりを支援する。	◆コロナ禍ではあったが、概ね多くの地域で見守りが出来ている。	◆塩原温泉病院との連携で、地域としての見守りは望まないが、実際には見守りが必要な人が多いことが見えてきた。	◆塩原温泉病院との更なる連携。	B	◆新たな実績の発見。	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 自分でできる範囲で地域の中で支援が必要な人に対する見守り活動を行います。

所管	R4実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域住民助け合い事業の活動の中で無理のない範囲で見守りや声かけなどを行っている。</li> <li>◆高齢者への友愛訪問や子どもへの見守り、スクールガード等において見守りを行っている。</li> <li>◆コロナ禍であったが、できる範囲内で例年とおりの活動を行う自治会が多くなった。</li> </ul>
黒磯支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆見守り活動を意識的に行なうため繰り返し事業説明を聞いたり、見守り対象者の見直しをして支援が必要な人の把握に努めた。</li> <li>◆「できること」を「できるとき」に「できる範囲」で見守り活動に取り組んでいる。</li> </ul>
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域住民助け合い事業を通して、サロン等での意見交換を中心に、地域の中で心配な人、特に高齢者に対する見守り活動をした。この内容を社協内の定例会で共有し、塩原地域支援会議でも共有、検討し、見守り活動を行った。</li> </ul>

令和4年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 2 誰もが暮らしやすい生活環境づくり

施策の方向性 4 地域における見守り体制の充実

今後の取組 (3) **支援が必要な人の情報収集・情報活用の充実**

① 行政

- ▶ 地域での情報の集め方、情報の共有と活用などのルールづくりをします。
- ▶ 見守り活動における個人情報の提供・活用ルールの検討を行います。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (社会福祉課)	◆避難行動要支援者支援制度の周知徹底を図り、同意者名簿の配布と活用を推進する。	◆避難行動要支援者支援制度の推進を図り、個人情報提供に係る協定を締結の上、災害時の備えや日頃の見守りに活用できるよう同意者名簿を各自治会を始め、関係機関に配布した。 【配布先】 ・協定済自治会 ・民生委員 ・社会福祉協議会 ・地域包括支援センター ター ・福祉事業所 ・警察署、消防署	◆地域の見守りの対象として同意者名簿の活用が進んでいる。	◆避難行動要支援者制度について、一般市民への制度理解を深める必要がある。	B	◆避難行動要支援者制度について、市と自治会・民生委員との連携が取れつつあり、自治会内でも活用が進んでいる。	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (高齢福祉課)	◆地域での防災のための情報の集め方、情報の共有と活用のためのルールづくりを実施する。	◆公立公民館区に地域支え合い推進員の配置し、地域の困りごとなどの把握、解決に向けた話し合いを行いながら、情報共有する体制づくりに取り組んだ。 ◆見守り活動等を実施した自治会等の数 H30…73 R1 …84 R2 …111 R3 …122 R4 …137 (R5.2末現在)	◆地域支え合い推進員が自治会等の見守り活動等に参加することで、地域の情報の把握や共有を図ることができた。 ◆新型コロナウイルス感染症の影響により、地域での見守り活動や、地域支え合い推進員による組織立ち上げの支援等が十分行えなかった。	◆見守り活動に取り組む自治会を増やし、地域間の交流を活性化することで、情報収集や情報活用を充実させる。 ◆地域支え合い推進員による見守り組織の立ち上げ支援を計画的に行っていく。	B	◆見守り活動を実施する自治会等の数が増えたことにより、地域の連携体制を拡充することができたため。(第8期高齢福祉計画値R4 120箇所)	継続
子ども未来部	◆地域での情報の集め方、情報の共有と活用などのルールづくりをします。 ◆見守り活動における個人情報提供・活用ルールの検討を行います。	◆担当課で、見守り等を依頼するにあたり、個人情報や今後の業務への影響など、課題となることは何かを整理することができた。	◆民生委員児童委員も、状況を把握したいができない現状がある。 ◆協力をお願いしたいこと、慎重に扱うべき事項の整理ができた。	◆個人情報の把握について、依頼したいことを具体的に伝え、市民の役割について理解を得る。	B	◆課題となっていた情報提供について問題点を整理することができた。継続して具体的な方法について理解を得ていく。	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 地域での情報の集め方、情報の共有と活用などのルールづくりの支援の方法について検討します。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	◆会議体のみではなく、地域の多様な場に参画しながら情報収集を行う。 ◆得た情報を的確に支援や地域作りにつなげる。	◆地域内での見守り対象者と避難行動要支援者の刷り合わせを行った ◆民生委員や地域包括支援センターとの情報共有を意識した ◆地域ケア会議や協議体を行う中で市民や関係機関と情報共有を行った ◆Facebookを活用し、情報発信を行った	◆地域住民助け合い事業だけでなく、他機関・他事業との連携を意識し、情報共有や支援を行った	◆支援が必要な人に対して、地域全体で関わる姿勢が重要	B	◆他機関・他事業との連携を意識して効率的な情報共有ができています	継続
黒磯支所地域福祉係	◆会議体のみではなく、地域の多様な場に参画しながら情報収集を行う。 ◆得た情報を的確に支援や地域作りにつなげる	◆見守り活動報告会やサロンなどの地域活動に参加し情報収集をし支援や地域づくりにつなげた。	◆見守り活動報告会や見守りマップ作成などをおし心配な人の情報共有をした。	◆情報を共有後の情報活用の充実。	B	◆様々な場所での情報収集ができた。	継続
塩原支所地域福祉係	◆地域での情報の集め方、情報の共有と活用などのルールづくりの支援方法について検討する。	◆自治会活動制限下のため、主に市、民生委員児童委員、包括、社協で支援が必要な人の情報を共有した。	◆コロナ禍という非常事態では、市民の活動が表に出ないため、行政情報を中心とすることが重要。	◆普段から行政情報を検証することが必要。	B	◆行政情報の活用。	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 地域の中で情報を収集し、情報共有の仕方や活用方法などのルールづくりについて検討します。

所管	R4実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆見守りマップの作成や班長等からの情報を基に見守りや支援が必要な方を把握し、地域内で情報共有をしている。</li> <li>◆見守りマップ等で把握した情報を基に助け合い活動を検討し実施している。</li> <li>◆避難行動要支援支援制度の情報も関係者で共有しながら、より精度の高い支え合い体制構築を進めている。</li> <li>◆個人情報保護の観点から見守り実施前に本人への意向確認、同意を得ている。</li> </ul>
黒磯支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域内の見守りマップ作成に取り組んでおり、心配な人の情報を共有している。</li> <li>◆地区の見守り活動情報交換会に参加し、他の地域での活動について理解を深めた。</li> </ul>
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆各地域の状況に応じて行われている見守り体制を尊重しており、多くの地域では、マップを作成しなくとも見守りが必要な人（情報）が把握されている。</li> <li>◆公的支援が必要な問題等については、塩原温泉病院、行政、自治会長、民生委員・児童委員、包括、社協に相談するという体制がルール化されている。</li> </ul>

令和4年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 3 みんなで支え合う、意識づくり、人づくり、つながりづくり

施策の方向性 1 お互いを理解し、尊重し合える環境づくり

今後の取組 (1) **障害者への理解の促進**

① 行政

- ▶ 障害者差別解消法の周知に努めます。
- ▶ 広報などを活用し、障害者施設での事業をPRします。
- ▶ 企業、地域住民への啓発活動を充実します。
- ▶ 市民を対象とした講演会を開催し、理解や関心を深めます。
- ▶ 地域における障害者の情報共有の方法を検討します。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (社会福祉課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆障害者差別解消法の周知に努める。</li> <li>◆広報などを活用し、障害者施設での事業をPR</li> <li>◆企業、地域住民への啓発活動を充実する</li> <li>◆地域における障害者の情報共有の方法を検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆市職員向けに差別解消法に係る研修を実施した。</li> <li>◆民生委員児童委員向けに障害者に対する理解促進に係る研修を実施した。</li> <li>◆手話に対する理解及び普及を図るため、広報誌やホームページにおける手話に関する記事の掲載、手話言語条例パンフレットの配布等を継続して実施した。</li> </ul>	<p>◆普及啓発を継続しているが、障害及び障害者に対する理解は十分とは言えない状況である。</p>	<p>◆令和6年度から事業者には合理的配慮の提供が義務付けられるため、研修等を通じて理解を図る必要がある。また、地域自立支援協議会と連携し、市民等に対し、引き続き様々な手段等により理解を深める活動を行う。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆差別解消や障害者に対する理解促進に係る研修等を実施することができた。</li> <li>◆企業や地域住民への啓発活動を更に強化していく必要がある。</li> </ul>	拡充

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 市民を対象とした講演会を開催し、理解や関心を深めます。
- ▶ 社協だよりやホームページなどに障害に関する情報を掲載し、地域住民への啓発活動を充実させます。
- ▶ 地域の中で障害者との交流会や居場所づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域の中で障害者の情報共有を行う場づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域の中で障害者への声かけなどの見守り活動の支援の方法について検討します。
- ▶ 地域にある障害者施設と地域住民との交流を推進します。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	<p>◆地域の中で障害者の情報共有を行う居場所づくりをさらに支援していく。</p> <p>◆地域にある障害者施設と地域住民との交流を再開、推進する。</p>	<p>◆県内関係機関等へ障がい啓発隊が出向き、講演を開催した。</p> <p>◆障がいについての情報共有を行う居場所（ケアラズカフェ）に参加し、地域からの声を拾ったり、情報を伝えた。</p>	<p>◆住民や関係機関に対し、障害への理解促進に繋がった。</p>	<p>◆地域住民への理解促進が不十分であった。</p>	B	<p>◆継続的に啓発を行ったことで、障害への意理解促進につながった。</p>	継続
黒磯支所地域福祉係	<p>◆地域の中で障害者の情報共有を行う居場所づくりをさらに支援していく。</p> <p>◆地域にある障害者施設と地域住民との交流を再開、推進する。</p>	<p>◆ボランティアや民生委員児童委員を対象に知的障害者疑似体験を実施した。</p> <p>◆地域の中で障害者の情報共有を行う居場所づくりを実施した。</p> <p>◆障害者を交えて地域の居場所で活動した。</p> <p>◆コロナ禍において、通常開催ができなかったふれあい広場を、趣旨に沿って参加団体の想いを動画に込めて配信した。</p>	<p>◆地域内で障害者についての理解、関心を深めた。</p> <p>◆動画配信によって多くの人にメッセージを届けた。</p>	<p>◆幅広い層での障害者理解、交流の場を充実させる。</p>	B	<p>◆障害者についての理解・関心を深めた。</p>	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆市民を対象とした講演会を開催し、理解や関心を深める。</li> <li>◆地域の中で障害者への声かけなどの見守り活動の支援方法について検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆コロナ禍のため、障害者も高齢者もほぼ活動休止。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆コロナ禍などの非常事態における支援のあり方検討。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆身体障害者等、特に活動自粛を希望する当事者が多い中での意見交換やその支援のあり方を検討すべき。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆実績不十分。</li> </ul>	継続
総務・経理係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆社協だよりとこども社協だよりをそれぞれ年2回ずつ発行する。</li> <li>◆社協からの最新の情報をHP、SNSに掲載する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆障害者を特集したこども社協だよりを発行した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆障害を含む様々な情報を周知することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆より市民の共感を得ることができる情報を発信する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆障害者を特集した記事を発行することができたため。</li> </ul>	継続
生活支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域住民や関係機関等へ障がい者に対する理解を深めるための情報発信に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆就労準備支援事業でクリスマス演奏会を実施し、障害者施設で生産したクッキー・手芸品を販売を通じて、相互理解を深めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆障害者の相互理解を深める場を提供した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆更なる障害者との交流する機会の創出に努める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆障害者の相互理解を深める場を提供した。</li> </ul>	継続
福祉サービス支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆交流会や居場所づくりや障害者の情報共有を行う場づくりの支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆利用者が作った作品を、関係機関と協力し販売することができた。</li> <li>◆数学が得意な利用者が児童生徒に勉強を教える機会を設けた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆作品を販売することや、勉強を教えることにより利用者のモチベーションアップにつながった。継続できる仕組みづくりが課題。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆関係機関と情報共有し、障害を持っている人も支援者として地域で活躍できる仕組みづくり。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆さらに事例及び意識を広げる必要があるため。</li> </ul>	継続
つくし	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆個々の利用者の問題、課題状況を把握し、個別支援から地域課題へ繋がられるように、必要な支援、サービスを関係機関と連携し進めていく。</li> <li>◆利用希望者等の見学や実習を受け入れ、支援が必要な人への適切な対応に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆施設周辺などからつくしへ繋がらる障害者の情報は得られなかった。</li> <li>◆現在のつくし利用者の地域生活においては、担当者会議や施設内の職員打合せで情報共有していくことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆コロナウィルス感染症対策にて以前からつながりのある自治会やライオンズクラブとの交流ができなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆コロナ対応が収束し今後の活動がコロナ前のようになってきたら積極的に交流をすすめていく。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域交流が図れなかった。</li> </ul>	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
心の里	<p>◆個々の利用者の問題、課題状況を把握し、個別支援から地域課題へ繋がられるように、必要な支援、サービスを関係機関と連携し進めていく。</p> <p>◆利用希望者等の見学や実習を受け入れ、支援が必要な人への適切な対応に努める。</p>	<p>◆コロナの影響で地域との交流、スポーツ行事、公民館イベント等殆どが中止となったがオンラインや動画の共同作成等、新しい形の交流ができた。</p> <p>◆那須塩原市の特産品のチーズ、同業種の福祉施設の手作り味噌を使用したクッキーを開発販売するための準備を進めた。</p>	<p>◆クラウドファンディングの実施についての説明会を実施、準備を進めている。</p>	<p>◆新商品開発に向けた準備と利用者支援のバランスを検討しながら進めていきたい。</p>	B	<p>◆新商品開発に向けて様々な方との協議が必要となり、結果、地域の方々との交流の場もでき、支援の拡充に繋がった。</p>	継続
ふれあいの森	<p>◆施設と地域住民との交流の場を設ける。</p>	<p>◆コロナの影響が続き、行事が減少し、今年度も地域との交流や社会参加の機会がほとんど作れなかった。そのような中であっても、少しずつ参加できるよう、地域とのつながりを作れるよう取り組んだ。</p>	<p>◆いくつかのイベントなどに販売として参加することができ、地域の方たちとの、ふれあいを行うことができた。</p>	<p>◆コロナによる制限は解除されたものの、不安が無くなったわけではなく、状況を見ながら社会参加をしていきたい。</p>	B	<p>◆今後も地域との交流や社会参加を進めていく</p>	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 障害者と積極的に交流し相互理解を深めます。
- ▶ 障害者の情報共有の方法を検討します。
- ▶ 障害者が参加しやすい交流会や居場所づくりを検討し、できることから行います。
- ▶ 障害者への声かけなどの見守りをします。
- ▶ 障害者差別解消法についての理解や関心を深めます。

所管	R4実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆障がいについての情報共有や当事者同士の憩いの場を目的とした居場所（ケアラズカフェ）に参加し情報を得た。</li> <li>◆障害をテーマとした研修会等に参加をして理解を深めた。</li> <li>◆自治会内で見守り活動を検討する際に、心配な障がい者世帯にも目を向けた。</li> </ul>
黒磯支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆知的障害者の疑似体験に参加し、障害への理解や関心を深めた。</li> <li>◆地域の居場所に来ている障害児について、住民ボランティアと関係者が情報共有し障害の理解がすすむよう特性や対応について話し合った。また、障害の専門職も参加し相互理解に努めた。</li> </ul>
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆旧身体障害者福祉会塩原支部会員の多くは高齢化のため積極的な活動は行われなかった。那須塩原市身体障害者福祉会の活動において、多くの会員が積極的に活動し、市民活動につながることで、生活の活性化が期待される。そして、それに応える交流の機会の提供を心掛ける。</li> </ul>
総務・経理係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆社協だよりやこころまるだより、HPをとおして障害に関する情報を得ている。</li> </ul>
生活支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆就労準備支援事業で実施したクリスマス演奏会に参加し、障害者施設で生産したクッキー・手芸品を販売を通じて、相互理解を深めた。</li> </ul>
つくし	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆つくし横の道路向いの分譲地に住宅が増えてきたため障害者施設や障害者についての理解を自治会を通じて促進していく必要があると感じた。</li> </ul>
心の里	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆長引くコロナ禍の中、行事等の中止により、利用者はもとより、ご家族のストレスも懸念される。負担軽減のためにも、少しでも利用者、ご家族が安心して生きがいを持った生活が継続できるように、感染防止を意識しながら施設内外でできる行事などを実施した。</li> <li>◆ご家族との情報共有、連携を図りながら、利用者の心身の状態、状況把握に努めた。</li> </ul>
ふれあいの森	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆コロナの影響が続き行事が無くなり、利用者の地域との交流や社会参加の機会がほとんどなくなってしまったが、そのなかでも工夫して行うことができた。</li> </ul>

## 令和4年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 3 みんなで支え合う、意識づくり、人づくり、つながりづくり

施策の方向性 1 お互いを理解し、尊重し合える環境づくり

今後の取組 (2) 高齢者・子育て世代などへの理解の促進

## ① 行政

- ▶ 子育て世代への理解を深めるため、企業への啓発活動を推進します。
- ▶ 認知症サポーター養成講座を充実し、認知症に対する理解を促進します。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (高齢福祉課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆認知症サポーター養成講座の開催</li> <li>◆チームオレンジなすしおばらの立上げ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆認知症サポーター養成者数 (延べ) H30…5,875人 R1 …6,636人 R2 …6,656人 R3 …6,681人 R4 …7,139人 (R5.2月末現在)</li> <li>◆チームオレンジなすしおばらの立上げ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けするサポーターを増やすことができた。</li> <li>◆チームオレンジなすしおばらを立上げることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆小中学校、高校、自治会等への周知を行い、認知症サポーター養成講座を開催し、一人でも多くのサポーターを増やしていく。</li> <li>◆チームオレンジなすしおばらが効果的に活動できるよう支援を行う。</li> </ul>	B	◆認知症サポーターの増加、チームオレンジなすしおばらの立上げにより、認知症の人と家族を地域で支える意識の啓発の一助となったため。	継続
子ども未来部	◆子育て世代への理解を深めるための啓発活動の推進。	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆市内企業から提供を受けた赤ちゃん用ミルクを、必要な家庭に届ける支援をつないだ。</li> <li>◆市外の企業との情報交換を行った。</li> <li>◆「生理の貧困」問題への取組。生理用品購入の際の協力依頼。</li> <li>◆県内の子育てファミリー向け情報誌に市の情報を掲載。那須塩原市の子育て情報を提供した。</li> </ul>	◆支援が必要な子育て世帯の現状や、生活必需品に不足している方の問題を企業と共有することができた。	◆企業、団体からの情報について積極的に共有を行っていく。	B	◆新たに情報交換等を行う企業、団体があった。	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で高齢者や子育ての問題について検討する場づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域の中で高齢者や子育て世代の人が参加できる行事の企画を支援します。
- ▶ 地域の中で世代間で交流する場づくりを支援します。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆きょうだいやヤングケアラーの支援体制について検討を継続する。</li> <li>◆新たなつながりが構築できる場づくりを検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ヤングケアラー協議会を定期的を開催し、制度設計について行政機関等へ働きかけを行った。</li> <li>◆LINEでの相談体制を継続した。</li> <li>◆医療的ケアネットワークミーティングを開催した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ヤングケアラー協議会については、行政機関等への働きかけにまで至ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆より多くの市民へ裾野を広げていきたい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆継続的に開催し、問題について検討していくことが出来た。</li> </ul>	継続
黒磯支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆きょうだいやヤングケアラーの支援体制について検討を継続する。</li> <li>◆新たなつながりが構築できる場づくりを検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域活動補助金を活用し世代間交流できる場を支援した。</li> <li>◆子ども食堂と地域住民が交流できる場を支援した。</li> <li>◆公民館区で認知症について学び話し合いをした。</li> <li>◆子ども食堂をとおして子育ての悩みや兄弟間のトラブル等について相談にのった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域で高齢者や子育てを考える機会になった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域全体で高齢者や子育てを考える場の支援。関係機関とのつながり。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域住民、関係機関と話し合いができた。</li> </ul>	継続
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域の中で世代間で交流する場づくりを支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆コロナ禍での市民活動自粛の結果、世代間交流もほぼ全面休止となった。ただ、社協の地域活動補助金を利用しての活動あり。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆門前地域においては、社協の地域活動補助金を利用して、地域住民の交流を図る行事が行われ、多くの住民の理解を得られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆門前地域での事例を参考にしながら、塩原地域連携会議で世代間交流の方法を検討していく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域住民交流事業に社協の地域活動補助金が活用された。</li> </ul>	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 高齢者や子育ての問題について話し合える場づくりを検討し、できることから行います。
- ▶ 日頃からあいさつを交わしコミュニケーションを図ります。
- ▶ 生きがいサロンや老人クラブなどへの参加を呼びかけます。
- ▶ 世代間で交流する場づくりを検討し、できることから行います。

所管	R4実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域座談会など話し合いの場に参加し、地域課題や地域で何が出来るかを話し合っている。</li> <li>◆日頃より心配な方を見守り、困ったときに助け合える関係を築いている。</li> <li>◆生きがいサロンやいきいき百歳体操等の活動を広く周知し、積極的な参加を呼びかけ、顔の見える関係、引きこもり予防、介護予防の機会としている。</li> <li>◆知り合いなどを通じ、単位老人クラブへの加入促進を図った。</li> <li>◆自治会等で世代間交流事業を開催し、世代間で交流出来る機会を設けた。</li> </ul>
黒磯支所	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域でのカフェや百歳体操、生きがいサロンや老人クラブなどへの参加を呼びかけた。</li> <li>◆小中学生と大人がつながりづくりについて話し合う場を設け実際にできることについて計画を立てた。</li> <li>◆住民の集う場をつくり、地域の別の居場所へつなげるなど情報提供や支援を行った。</li> </ul>
塩原支所	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆今後の課題として、高齢化や転居による人口減の状況を踏まえ、広域的に見守り体制を広げ、世代間で互いを理解、尊重する環境づくりを維持する必要がある。門前地区では、社協の地域活動補助金を活用し、住民交流に有用な行事が行われた。これを他の地域にも広めていく。</li> </ul>

## 令和4年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 3 みんなで支え合う、意識づくり、人づくり、つながりづくり

施策の方向性 2 地域福祉活動の担い手の育成

今後の取組 (1) 地域活動・ボランティア活動への支援の充実

## ① 行政

- ▶ 自主防災組織や地域見守り活動への支援を充実します。
- ▶ ボランティアポイント制度の拡充や有償ボランティアの仕組みづくりの検討を進めます。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
総務部	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自主防災組織育成支援補助金の交付</li> <li>◆自主防災組織の活動支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自主防災組織の結成、事業運営、資機材等整備を支援するための補助金を交付した。</li> <li>◆自主防災組織が行う避難訓練や自治会避難マニュアル策定への協力を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自主防災組織が結成されていない自治会がまだあり、結成されている組織においても、活動状況に地域差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆組織の結成や活動に対する費用補助を継続する。</li> <li>◆自主防災活動が地域差なく、活発に行われるよう支援する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自主防災組織の活動に対する支援を実施することができた。</li> </ul>	継続
保健福祉部 (社会福祉課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ボランティアポイント制度の拡充や有償ボランティアの仕組みづくりの検討を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆介護支援ボランティア活動登録者(119人 R5.3.31現在)</li> <li>◆介護予防サポーター養成31人(累計128人)</li> <li>◆ボランティアセンターだよりの広報配布</li> <li>◆ボランティアポイント制度の拡充については未実施</li> <li>◆社会福祉協議会と「災害ボランティアセンターの設置等に関する協定」を締結</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ボランティア活動を行うきっかけづくりとなっている。</li> <li>◆ボランティアポイント制度の拡充には至っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆コロナ禍においても、ボランティア活動や担い手の育成が滞らないよう、情報発信や意識の醸成についても検討する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆コロナ禍においても登録者数が伸びるなど、継続した事業実施がなされているため</li> </ul>	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (高齢福祉課)	<p>◆自主防災組織や地域見守り活動への支援を充実させる。</p> <p>◆ボランティアポイント制度の拡充や有償ボランティアの仕組みづくりの検討を進める。</p> <p>◆地域住民助け合い事業において、重層的な生活支援サービスが地域で提供される体制を整備する。</p> <p>◆介護支援ボランティアポイント事業を推進する。</p>	<p>◆介護支援ボランティア活動登録者 H30…145人（H31.3現在） R1…148人（R2.3現在） R2…135人（R3.3現在） R3…133人（R4.3現在） R4…122人（R5.3現在）</p> <p>◆公立公民館区に地域支え合い推進員の配置し、地域の困りごとなどの把握、解決に向けた話し合いを行いながら、見守り助け合う地域づくり（担い手の育成）に取り組んだ。</p> <p>◆見守り活動等を実施した自治会数 H30…73 R1…84 R2…111 R3…122 R4…137（R5.2末現在）</p> <p>◆介護予防サポーター養成者数 H30…69人 R1…69人 R2…79人 R3…96人 R4…128人</p>	<p>◆見守り活動を実施する自治会等の増加により、地域で活動する担い手を拡充することができた。</p> <p>◆今後も新型コロナウイルス感染症の拡大防止を図りつつ、新しい生活様式に対応した支援等を行う必要がある。</p> <p>◆介護支援ボランティア活動については、活動が自粛されており、新たな活動方法の検討が必要。</p>	<p>◆地域における見守り体制を充実させるため、見守り活動等を実施する自治会等を増やしていく。</p> <p>◆新しい生活様式に対応した、地域支え合い推進員による見守り組織の立ち上げ支援を計画的に行っていく。</p> <p>◆介護予防サポーター養成後は定期的にフォローを行い、継続して活動できるように支援する。</p>	B	<p>◆見守り活動を実施する自治会等の数が増えたことにより、地域の連携体制を拡充することができたため。（第8期高齢福祉計画値R4 120箇所）</p>	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 社協だより、ボランティアセンター情報紙、ホームページなどを活用し、地域活動やボランティア活動をPRします。
- ▶ 地域活動やボランティア活動の充実を図ります。
- ▶ ボランティア同士での意見交換の場を設けます。
- ▶ 学生や大人を対象とした福祉教育の充実を図ります。
- ▶ ボランティアセンター運営体制の強化を検討します。
- ▶ ボランティアに関する講座などを開催します。
- ▶ ボランティア活動への経済的な支援を継続します。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	◆オンライン環境にないような住民や慣れない住民に対する支援を検討する。	◆引き続きSNS（facebook）やHPを活用し、迅速でタイムリーな情報の発信をした。 ◆オンライン環境にない住民に対しては、社協だよりやこども社協だよりを活用した。 ◆住民参加型の話し合いの場においても、ハイブリット開催にて対応した。	◆地域福祉活動の周知を十分に図ることが出来た。	◆オンライン環境にない住民への周知が課題として残った。	B	◆一定の情報発信は行うことが出来た。	継続
黒磯支所地域福祉係	◆オンライン環境にないような住民や慣れない住民に対する支援を検討する。	◆ボランティアセンターに登録しているボランティアを対象に交流会を実施し、情報共有や参加者同士の連携を図った。 ◆ボランティアセンターと推進員、支援員が情報を共有し、地域の居場所などでの活躍の場を広げた。	◆活動や考えを共有することにより、団体同士良い刺激になった。	◆地域活動、ボランティア活動の充実。	B	◆活動に大きな効果がうまれました。	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
塩原支所地域福祉係	◆社協だより、ボランティアセンター情報紙、ホームページなどを活用し、地域活動やボランティア活動をPRする。	◆事業として始まった配食サービスのために配送ボランティアを募集した。この募集は、社協のボランティアセンターの佐藤運営委員長（当時）に依頼して行った。	◆配送ボランティアという限定的な目的ながら、地域のボランティアとして協力してくれる人たちが集まった	◆地域のボランティアを広く育成する。	B	◆ボランティア育成のきっかけができた。	継続
総務・経理係	◆社協だよりとこども社協だよりをそれぞれ年2回ずつ発行する。 ◆ボランティア情報誌を年6回発行する。 ◆社協からの最新の情報をHP、SNSに掲載する。	◆社協だよりとこども社協だよりをそれぞれ年2回ずつ発行した他、ボランティア情報誌を年6回発行した。また、HP、Facebookを利用し、ボランティアの情報を発信した。	◆社協だよりやボランティア情報誌、HP、Facebookを利用し、ボランティアに関する情報を周知することができた。	◆HPやSNSを活用し、リアルタイムな情報を発信していく。	B	◆情報発信はできている。	継続
ボランティアセンター	◆社協の福祉総合相談窓口が設置され、複雑化、複合化する相談に対し、ボラセンとしても他機関とより連携を強化し、地域課題の解決に取り組む。	◆コロナ禍で活動等も少ない中でもボランティアセンター情報誌の定期発行の継続し、活動の紹介や情報の発信を行った。 ◆ボランティ交流会を実施しボランティア同士の意見交換や交流を実施 ◆ZOOMを活用したオンラインボランティア支援の実施	◆ボランティア活動の情報を発信することで、コロナ禍でもボランティア活動の気持ちを絶やさないよう支援を行うことができた。 ◆交流会を行うことで、ボランティア同士の横のつながりやボラセンとの連携強化につながった。	◆引き続きボランティア情報の発信や様々なボランティア事業を行い、他機関等との連携も行き、市内のボランティアの活性化を図っていく。	A	◆ボランティア活動の情報発信をすることで、コロナ禍でのモチベーション維持が図れた。	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 自分の関心のあるボランティアに関する講座などに参加するよう努めます。
- ▶ 自分ができることや地域住民ができることについて検討します。
- ▶ 地域の行事や地域活動に関心を持ち、参加するよう努めます。

所管	R4実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域ケア会議や地域座談会等に参加し、自分ができることや地域住民ができることについて検討した。</li> <li>◆関係機関等で開催した研修会に参加し、教養を深めた。</li> <li>◆認知症当事者の会や配食サービスにボランティアとして従事している。</li> <li>◆オンラインを活用し、ボランティア同士の情報交換をした。</li> <li>◆地域の行事や活動に参加し、顔の見える関係の構築に努めた。</li> </ul>
黒磯支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域で困っている人からの相談を、地域包括支援センター、社会福祉協議会の相談窓口を紹介した。</li> <li>◆相談支援包括化推進員や相談窓口の情報提供を行った。</li> <li>◆社協で実施した相談会（相談+お米配布）の情報を提供した。</li> </ul>
塩原支所地域福祉係	◆塩原地区で行われていた配食サービスを社協が行うにあたり、弁当の配送ボランティアを組織したことから、今後、地元ボランティア活動の中心的存在となることが期待された。多くの人とまでは行かないが、関心ある人に参加してもらい、地域活動に対する関心を高められつつある。
総務・経理係	◆社協だよりやこころまるだより、ボランティア情報誌、HPをとおして地域活動やボランティアに関する情報を得ている。

令和4年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 3 みんなで支え合う、意識づくり、人づくり、つながりづくり

施策の方向性 2 地域福祉活動の担い手の育成

今後の取組 (2) **地域活動・ボランティアの人材やリーダーの育成**

① 行政

- ▶ 若者による地域づくりへの参画を推進します。
- ▶ リーダーを養成するための市民講座を充実します。
- ▶ 福祉事業の人材確保のための仕組みづくりを検討します。
- ▶ ボランティアを体験する場を提供する仕組みを検討します。
- ▶ ボランティア情報を提供する仕組みを充実します。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
企画部	◆若者向け企画を実施	◆市民活動センター主催で「若者」も参加しやすい事業を開催した。 ◆市民提案型協働のまちづくり支援事業に若者の向けの支援コースを追加した。	◆11/3 なすしおばら市民フェスタ2022 ◆11/13 若者の社会参加促進事業 ◆2/12 なすしおばら×協働サミット2022 市民活動に関わる機会を作るため、市民活動センター利用者協議会の協力のもと事業を実施した。学生に自分たちのできることを考えてもらうことができた。一方で高校生の参加が少なかった。 市民提案型協働のまちづくり支援事業は事業が継続できないケースが生じた。	◆市民活動に関わる市民の裾野を広げるため、情報発信を継続していく。また、若者が参加しやすい方法を検討していく。	B	市民活動の入口となるような事業を実施できたため	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (高齢福祉課)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆介護予防サポーター養成講座を実施する。</li> <li>◆若者による地域づくりへの参画を推進する。</li> <li>◆福祉事業の人材確保のための仕組みづくりの提案を行う。</li> <li>◆ボランティア体験する場を提供する仕組みを検討し、また、ボランティア情報を提供する仕組みを充実させる提案を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆介護予防サポーター養成者数 H30・・・69人 R1・・・69人 R2・・・79人 R3・・・96人 R4・・・128人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆介護予防サポーターを増やし、いきいき百歳体操などの通いの場において、住民主体による介護予防への取組を強化することができた。</li> <li>◆代表者の高齢化やコロナ禍による中止等の影響で、通いの場の継続に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆介護予防サポーターを増やすことで、住民主体の通いの場の立上げを支援し、地域全体で介護予防に取り組む地域を目指す。</li> <li>◆立ち上がった団体が継続して活動できるよう支援する。</li> </ul>	B	◆介護サポーターの増員により、地域全体で介護予防に取り組む体制を拡充することができた。	継続
子ども未来部	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆福祉事業の人材確保のための仕組みづくりの検討。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ファミリーサポートセンターや放課後児童クラブの人材育成について、県の研修への参加やオンラインによる市の研修を実施した。</li> <li>◆子育てコンシェルジュが民間事業者の子育てサロンを巡回し、利用者や事業者の相談支援を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆子育てサロンや子育て短期支援事業を利用することで、育児不安の解消や家庭の安定につながり、安心して子育てができる環境が整っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆子育て短期支援事業へのニーズが高まっており、申請者と委託先とのスムーズな連絡調整が必要</li> </ul>	B	◆子育て中の保護者の育児不安の解消に一定の効果がみられたが、更なる充実が必要であるため。	継続
教育部	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆市民大学地域づくり学部にて、まちづくりに関心のある市民、これから地域で何らかの活動をしたいと考えている市民、または、すでに団体等で活躍している市民を対象とした講座を実施し、講座修了後に地域で自主的に活動できる人材育成を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆生涯学習課で「地域学校協働活動推進員養成講座」の内1回を実施。 R元 1回実施 R2 中止 R3 1回実施 R4 1回実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域学校協働活動推進員養成講座では、推進員の養成と地域で活動する意識づくりを行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆新たな人材発掘の面から、新規の受講者獲得のため、広報活動等の工夫が必要である。</li> </ul>	B	◆地域学校協働活動推進員の養成につながったため。	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 若者による地域づくり座談会の開催に向けた支援の方法を検討します。
- ▶ リーダーを養成するための市民講座などを開催します。
- ▶ ボランティアを体験する場の提供を充実させます。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	◆地区ごとの研修会や話し合いの場を市内に広く支援し地域の場を増やす。	◆地区ごとに地域のことについて話し合う場（協議体）を設け支援した。	◆話し合いの場を設け、地域課題等について検討する場を設けることが出来た。	◆社協主体となってしまう傾向があった。	B	◆話し合いの場を継続的に持つことが出来ている。	継続
黒磯支所地域福祉係	◆地区ごとの研修会や話し合いの場を市内に広く支援し地域の場を増やす。	◆研修会や話し合いの場を協議体で実施。	◆地区ごとに研修会や話し合いの場を設け意識の向上を図った。	◆定期的の実施している。	B	◆話し合いの場を設けた。	継続
塩原支所地域福祉係	◆広く世代間でボランティア活動について知り、理解してもらうため、学校と協働しボランティアを案内する。	◆コロナ禍のため、学校への働きかけを自粛。	◆ボランティアセンター本所が担当する講座や情報誌でボランティアに対する理解をPRした。	◆地域の教育の場である小中学校とボランティア教育について意見交換から始める。	C	◆評価を得るための実績なし。	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
ボランティアセンター	<p>◆社協の福祉総合相談窓口が設置され、複雑化、複合化する相談に対し、ボラセンとしても他機関とより連携を強化し、地域課題の解決に取り組む。</p>	<p>◆小学生の親子対象のボランティア講座を開催し、親子で福祉やボランティアについての学ぶ機会を作った。</p> <p>◆若年層のボランティアの育成やボランティアを体験することを目的に中高校生ボランティアサマースクールの開催や高校生ボランティアグループとんぼの会の支援を行った。</p> <p>◆学校や地域で福祉体験学習を行い福祉についての学びに協力。</p> <p>◆ボランティア活動の情報を多く提供できるよう努めた。</p> <p>◆若者をケアラーサロンやフードバンク事業等への参加につないだ。</p>	<p>◆小学生や親子向けの新しい講座を開催し、親子で福祉やボランティアについて学ぶ機会を作ることが出来た。</p> <p>◆ボランティアサマースクールが、新プログラムで2年目を迎え昨年度より内容の濃い講座や育成が行えた。 (中高校生が合同でふりかえりの事業を行った)</p> <p>◆今年度も高校生ボランティアグループとんぼの会に多くのボランティア活動の場を提供できた。</p>	<p>◆若者による地域づくり座談会等の支援の方法を検討します。</p>	B	<p>◆コロナ過ではあったが、講座等も開催でき、少しずつではあったが活動が行えた。</p>	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 若者による地域づくり座談会へ参加するよう努めます。
- ▶ リーダーを養成するための市民講座などに参加するよう努めます。

所管	R4実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域座談会へ参加し地域のニーズや課題について検討した。</li> <li>◆研修会等に積極的に参加し、地域づくりへの理解を深めた。</li> <li>◆地域活動をする中で地域の担い手を育成するため、積極的に自治会活動に参加してもらえよう、働きかけを行った。</li> </ul>
黒磯支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆協議体活動に沿う中学生に入ってもらい地域づくり、つながりづくりのために何ができるか話し合いを行った。</li> </ul>
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ボランティアセンターが企画する講座の利用も含め、小中学校と話し合う予定だったが、コロナ禍での活動自粛の後は実現に至らなかった。そこで、ボランティアセンター本所が担当する講座や情報誌でボランティアに対する理解をPRした。</li> </ul>

## 令和4年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 3 みんなで支え合う、意識づくり、人づくり、つながりづくり

施策の方向性 3 地域でのつながりづくり

今後の取組 (1) **地域での交流促進**① **行政**

- ▶ 地域での交流を促進する制度や支援の在り方を検討します。
- ▶ 学校だよりや各学校のホームページなどを有効活用しながら情報発信し、地域との交流を促進します。
- ▶ 公民館を核として、学校との地域の連携・協働を強化する、「地域学校協働推進事業」を進めます。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
企画部	◆市民活動センターの運営、イベントの実施	◆市民活動センター利用者協議会と協力し、工夫しながら事業ができた。	◆センター設立初年度以来の形式で市民フェスタが実施できた。しかし、情報がまだ多くの人に行き届いていない課題がある。	◆市民活動センターを、より多くの人に知ってもらうため事業内容を工夫し、継続して情報を発信する。	B	◆これまでの課題を少しずつ解決し前進できている。	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
保健福祉部 (高齢福祉課)	<p>◆地域での交流を促進する制度や支援の在り方を検討する。</p> <p>◆生きがいサロン推進事業の実施</p> <p>◆元気アップデイサービス事業の実施</p> <p>◆シニアセンターを拠点とした居場所づくり</p> <p>◆新しい居場所づくりの検討</p>	<p>(居場所づくり)</p> <p>◆生きがいサロン運営支援</p> <p>H30・・・60箇所 R1・・・61箇所 R2・・・60箇所 R3・・・61箇所 R4・・・61箇所</p> <p>◆元気アップデイサービス</p> <p>H30・・・26コース R1・・・25コース R2・・・24コース R3・・・22コース R4・・・22コース</p> <p>◆老人クラブ運営支援</p> <p>H30・・・55箇所 R1・・・53箇所 R2・・・51箇所 R3・・・50箇所 R4・・・44箇所</p> <p>◆シニアセンター年間利用者数</p> <p>H30・・・20,282人 R1・・・15,536人 (R2.1未現在) R2・・・4,860人 (R3.1未現在) R3・・・7,953人 (R4.1未現在) R4・・・9,754人 (R5.1未現在)</p>	<p>◆生きがいサロン等の実施団体や参加者の増加を図る。</p> <p>◆老人クラブは箇所数等の減少が続いている。</p>	<p>◆生きがいサロン等の内容をPRし、実施団体や参加者の増加を目指す。</p> <p>◆老人クラブの魅力のPR等により、箇所数及び会員数の減少を防止する。</p> <p>※新たな生活様式により、十分な感染対策を行ったうえでの開催に向けて指導・支援を行う。</p>	B	<p>◆生きがいサロンや老人クラブの活動を支援することにより、地域での交流促進に一定の効果があったため。</p>	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
教育部	<p>◆学校だよりや各学校のホームページなどを有効活用しながら情報発信し、地域との交流を促進する。</p> <p>◆モデル地区を3地区設定し、事業内容について協議を行う。</p> <p>◆地域学校協働活動推進員養成講座を実施する。</p>	<p>◆学校だよりを回覧板や学校ホームページで地域へ公開し、学校の情報を積極的に発信した。</p> <p>◆学校ホームページを用いて、学校行事や日常の様子、コロナ対応ガイドライン等について、適宜情報を発信した。</p> <p>◆各学校で学校ホームページへの掲載方法を工夫し、手間をかけずに情報発信ができるようにしている。</p> <p>◆各地域学校協働本部で特色ある地域学校協働活動を展開しており、適宜学校ホームページや学校だより等で積極的に地域へ情報を発信した。</p> <p>◆市内全ての中学校区（黒磯北中学校区・三島中学校区・塩原中学校区、日新中学校区・東那須野中学校区・西那須野中学校区、黒磯中学校区、厚崎中学校区、高林中学校区、常根中学区）で本部事業を実施。</p> <p>◆地域学校協働活動推進員推進員を対象としたフォローアップ研修を年3回実施。</p> <p>◆次年度から新規で活動する地域学校協働活動推進員を対象とした養成講座を年3回実施。</p>	<p>◆学校から地域への情報発信により、情報の共有が図られ、地域交流の一助となっている。</p> <p>◆地域学校協働活動に参画した地域住民等の数は昨年度に比べ4倍に増えており、各本部で地域の特色を活かした事業を展開している。</p> <p>◆地域学校協働活動推進員の1校あたりの数が増えており、市民の地域づくりへの参画意識が高まっている。また、推進員に対して行っている研修も、PDCAサイクルを活かしながらより効果的な研修となるよう見直しを図ることができた。</p> <p>◆市民アンケートによるとまだ地域学校協働活動に関する市民の認知度が低い。より多くの幅広い世代の地域住民に参画していただけるよう周知方法を検討していく必要がある。</p>	<p>◆引き続きスピーディーな情報発信に努めるとともに、学校間の差を小さくする。</p> <p>◆学校ホームページを今後も効果的に活用するとともに、地域学校協働本部会議において、各本部の特色を活かした地域への周知方法を検討していく。</p>	B	<p>◆学校と地域の情報の共有が行われ、地域交流の一助となっているため。</p> <p>◆全本部で地域学校協働本部を開催し、地域学校協働活動に関する情報共有や、よりよい地域づくりに向けたグループワークを実施したため。</p> <p>◆より推進員のニーズに合った研修となるよう内容を見直し、適切に実施したため。</p>	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で気軽に誰でも参加できる行事の企画を支援します。
- ▶ 世代を超えて集まれる場づくりを支援します。
- ▶ 障害者などと地域住民が気軽に交流できる場づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 地域住民と学校や福祉事業者などとの交流を推進します。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	◆居場所づくりについて、ニーズに合った検討や支援を広くする。	◆地域ケア会議や協議体などを通じ、居場所づくりについて検討することができた	◆新たに居場所づくりへ取り組むことができた。	◆地域のニーズに合わせて居場所づくりを検討していく。	B	◆検討が実現につながった。	継続
黒磯支所地域福祉係	◆居場所づくりについて、ニーズに合った検討や支援を広くする。	◆自治会等が実施する多世代交流事業の支援を行った。 ◆世代を超えて集まれる場づくりや地域住民と学校や福祉事業所などとの交流を協議体で実施。 ◆福祉SOS研修会を開催し、住民・福祉事業者で地域について話し合う機会を設けた。	◆世代を超えて交流のできる場や福祉事業者との話し合いの場ができた。	◆地域での交流の場をつくり推進する。	B	◆地域での交流の場づくりの支援ができた。	継続
塩原支所地域福祉係	◆地域の中で気軽に誰でも参加できる行事の規格の支援をする。 ◆世代を超えて集まれる場づくりを支援する。	◆コロナ禍による市民活動自粛のため、地域福祉活動補助金を活用しての世代間交流事業も行われなかった。	◆コロナ禍のような、市民活動が基本的に停止せざるを得ない事態における地域交流の在り方検討。	◆人同士がつながっていることを意識できる方法の検討。	C	◆評価できる実績不十分。	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 気軽に誰でも参加できる行事を企画し、参加を呼びかけます。
- ▶ 世代を超えて集まることができる場づくりを検討し、世代間交流に努めます。
- ▶ 障害者などと地域住民が気軽に交流できる場づくりを検討し、できることから行います。
- ▶ 学校や福祉事業者などとの交流を図るよう努めます。

所管	R4実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自治会にて、世代間交流事業を企画し世代を超えて集まれる機会を設けた。</li> <li>◆当事者主体の居場所づくりを検討し開催した。</li> <li>◆地域にある施設の運営会議等に書面開催であるが、意見を伝えた。</li> </ul>
黒磯支所 地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域福祉活動補助金を活用し、地域ごとの世代間交流を実施し、地域住民のつながり作りに取り組んだ。</li> <li>◆住民の集える居場所をつくり、そこに学校、商店、酪農・農業組合、福祉施設等さまざまな機関への関わりの創出に努めた。</li> </ul>
塩原支所 地域福祉係	<p>◆特に、夏季、多くの地域が参加して行われてきた世代間交流事業である、温泉まつりが3年連続で中止となった。この祭りは、塩原地域における大きなイベントであり、世代を超えての地域住民交流として行われてきた。このまつりが、今後廃止されるという話もあるため、世代間交流を維持する方法を検討する必要がある。特に高齢者が多い地域であることから、塩原温泉病院の通院、入退院者が多く、そこでは様々な相談が多いことから、その内容を共有し、地域の交流に役立つような重層的支援体制を整備し、地域共生社会につながるような交流の在り方を検討していく。</p>

令和4年度 那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画の取組・評価

基本目標 3 みんなで支え合う、意識づくり、人づくり、つながりづくり

施策の方向性 3 地域でのつながりづくり

今後の取組 (2) 自治会加入率の向上と自治会活動・コミュニティ活動の活性化

① 行政

- ▶ 自治会加入率向上のためのサポートを充実し、自治会活動の活性化につなげます。
- ▶ コミュニティ活動の活性化を促す施策の充実に努めます。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
企画部	<p>◆自治会未加入者に対して広報活動を実施し、自治会加入促進を行う。</p> <p>◆自治会との連携を強化して加入促進対策を行う。</p> <p>◆自治会活性化のための支援を行う。</p> <p>【自治会加入率(目標)】 R4・・・65%</p>	<p>◆自治会加入促進チラシの配布</p> <p>◆自治会活動促進に関する条例のPR</p> <p>◆自治会長研修の実施</p> <p>◆自治会活動ガイドライン改定</p> <p>◆自治会加入促進キャンペーン実施</p> <p>【自治会加入率】 H30・・・63.5% R元・・・62.8% R2・・・61.5% R3・・・60.4% R4・・・59.4%</p>	<p>◆自治会長連絡協議会と連携し、市自治会活動促進に関する条例のPR及び条例を生かした加入促進キャンペーンを実施した。</p> <p>◆自治会長研修において、加入促進に取り組む自治会の事例を紹介した。</p>	<p>◆加入促進キャンペーンに併せ、コロナ禍での自粛期間後に活動再開するに当たり、活動事例を共有して、自治会の活性化を図る。</p>	B	<p>◆自治会加入率の向上には至っていないが、加入促進活動と自治会活動の支援を行うことができた。</p>	継続

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
教育部	<p>◆那須塩原市コミュニティ連絡協議会で、意見交換会、研修会を実施。</p> <p>◆那須塩原市コミュニティ連絡協議会加入団体に対し、コミュニティ活動補助金を交付。</p>	<p>◆研修 第1回7/7事業予定の共有・意見交換、第2回11/15国体の成果報告・年度後半事業予定の共有・意見交換</p> <p>◆コミュニティ活動ガイドラインの改定</p> <p>◆コミュニティ活動支援補助金 11団体（繰越金で事業実施する団体やコロナウイルス感染拡大防止のため事業縮小している団体があるため申請件数減少）</p> <p>◆自治総合センターコミュニティ助成補助金 1団体</p>	<p>◆各コミュニティが、コロナ禍においても実施可能な活動を行えるよう事業予定共有及び意見交換の場を設けたほか、コミュニティ活動ガイドラインを改定して支援した。</p>	<p>◆補助金によるバックアップの継続は必要。各コミュニティとも活動の担い手不足の問題についてフォローする。</p>	B	<p>◆活動活性化への支援を行うことができた。引き続きウィズコロナの活動支援が必要。</p>	継続

## ② 社会福祉協議会

- ▶ 地域の中で福祉課題に関して検討する場づくりの支援の方法について検討します。
- ▶ 様々な世代が自治会運営に携わることができる仕組みづくりの支援の方法について検討します。

所管	R4事業実施計画	R4実績	成果・課題	対策・改善	評価	評価理由	今後
地域支援係	<p>◆実践できそうなことに関して場づくりを広く検討し、積極的に支援する。</p> <p>◆地域ケア会議等を継続支援し、地域課題に即した内容を企画する。</p>	<p>◆地域ケア会議等を通して、協議体へ繋がった。</p>	<p>◆地域の課題やニーズに応じて協議体の場を設けることが出来た。</p>	<p>◆より多くの市民へ裾野を広げていきたい。</p>	B	<p>◆地域のニーズに応じて話し合いの場を設けることが出来た。</p>	継続
黒磯支所地域福祉係	<p>◆実践できそうなことに関して場づくりを広く検討し、積極的に支援する。</p> <p>◆地域ケア会議等を継続支援し、地域課題に即した内容を企画する。</p>	<p>◆地域の課題について検討し、新たな活動を開始した。</p> <p>◆見守り活動を通して地域の課題を把握し、解決に向けて協議した。</p>	<p>◆地域住民と連携しながら地域の状況と課題について検討し取り組んだ。</p>	<p>◆地域課題に沿った話し合いの場を定期的につくる。</p>	B	<p>◆地域での課題検討の場ができた。</p>	継続
塩原支所地域福祉係	<p>◆地域の中で福祉課題に関して検討する場づくりの支援方法について検討する。</p>	<p>◆地域福祉計画、地域福祉活動計画を見直すための地域座談会で意見交換することができた。</p>	<p>◆オンライン形式での開催ではあったが、コロナ禍のような集まりを自粛すべき状況での話し合い形式としては有用。</p>	<p>◆オンライン形式も踏まえ、多くの意見が交わされるような意見交換会を普段から開催できる方法の検討。</p>	B	<p>◆オンライン形式ではあっても話し合いができたため。</p>	継続

## ③ 市民や関係団体

- ▶ 自治会未加入者へ積極的に声をかけ、地域のつながりを深めるよう努めます。
- ▶ 様々な世代が自治会運営に携わることができる仕組みづくりを検討します。

所管	R4実績
地域支援係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自治会未加入者も見守りの対象とし、地域との繋がりを途切れないようにした。</li> <li>◆社協の補助金事業を活用し、地域のつながりを深められるような事業を企画した。</li> <li>◆多世代が自治会に興味をもってもらえるよう、様々なイベントを企画した。</li> <li>◆地区ごとの話し合いの場に参加し、自分たちの住んでいる自治会の状況や加入について共有をした。</li> <li>◆自治会通信を発行及び回覧し、自治会の魅力や活動を広く周知した。</li> </ul>
黒磯支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域で困っている人からの相談を、地域包括支援センター、社会福祉協議会の相談窓口を紹介した。</li> <li>◆相談支援包括化推進員や相談窓口の情報提供を行った。</li> <li>◆社協で実施した相談会（相談+お米配布）の情報を提供した。</li> </ul>
塩原支所地域福祉係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆自治会未加入者も含め、特に、困窮している様子の人について、近隣住民とも相談しながら、できるだけの支援を行ってきたが、自治会加入率の向上には至っていない。また、人口減少も進んでしまっている。</li> </ul>